巻頭言

夢と感動を与えてくれた世界大会

日本ハンドボール協会
常務理事　竹野　奉昭

～大成功に終わった男子世界選手権・熊本

この大会は競技運営面でも観客動員の面でも大成功、今までヨーロッパで開かれた大会のどれと比較しても勝るとも劣らぬ盛況でした。IHFのランス会長以下全役員が日本協会の組織力、地元熊本の大会組織委員会の周到な準備を絶賛していました。

このように盛り上がった最大の要因は優勝したロシア、2位スウェーデン、3位フランスをはじめとする強豪チームが、力強く、スピード感にあふれたプレー、人間技とも思えぬ妙技を随所に披露しファンを魅了したことです。特にロシアが準決勝でフランスを延長の末に1点差で破ったゲームは「歴史に残る試合だった」とマクシーモフ・ロシア監督に言わせたようにすばらしい熱戦でした。

また地元全日本もよくやりました。悲願のベスト8には入れませんでしたが、決勝トーナメントに進出、1回戦に当たった前回優勝国で今回3位になったフランスを最後まで苦しめた試合は日本ハンドボール史上に残る好試合でした。後半残り15分を切って5点リードする試合展開でしたが、残り47秒で同点に追いつかれ、終了と同時(残り0秒)に決勝点を許して惜敗しました。

予選リーグで敗れた初戦の対アイスランド、第2戦の対ユーゴスラビアの試合を見ても本場ヨーロッパのチームとほぼ互角に渡り合えるまで力をつけました。

この日本の善戦がファンの感動を呼び、競技場へ足を向かせて連日満員の盛り上がりを見せたといっても過言ではありません。全日本はオルソン監督の指導のもと、すばらしく力をつけました。

しかし、ヨーロッパのチームに善戦できても勝つところまではまだ達していません。世界一流の強国との間には、まだ隔たりがあります。これを縮めて、追いつき追い抜く努力が必要なことを今大会は教えてくれました。

終わりにあたり、夢と感動を与えていただいた、福島熊本県知事を始め、熊本のみなさんに厚くお礼を申し上げます。

手権大会
優勝で幕

史上最高の観客を動員、大きな盛り上がりを見せた世界大会

ROUND

28-27(15-12)

27-28(11-15)

20-23(9-10)

23-32(11-11)

17-12(33-26)

日本ハンドボール界が待望していた第15回男子世界選手権熊本大会は、5月17日に開幕した。日本ーアイスランド戦を皮切りに、熊本パークドーム、熊本市立総合体育館、山鹿市体育館、八代市体育館の4会場で世界の強豪24カ国が熱戦を繰り広げた。

6月1日に、ロシアースウェーデンの間で決勝戦が行なわれた。試合は激戦の末、ロシアが23―21でスウェーデンを下し、2大会ぶり、3回目（旧ソ連時代を含む）の優勝を飾った。

観客動員においては当初10万人の予想をはるかに上回り、207、679人となり、史上最高であったスウェーデン大会の2倍の観客が集まった。

大会運営についても、当初、国際大会であるための行き違いから多少のトラブルもあったが、すぐに修正され大会後半はIHF役員も絶賛する程、スムーズに流れ、大成功となった。

なお、大会の最優秀選手にドイシェバエフ（スペイン）が選ばれた。オールスターチームには、以下の選手が各ポジション毎に選出された。

1997年男子世界ハンドボール選手権大会・熊本 最終成績

順位	国
優勝	ロシア
準優勝	スウェーデン
3位	フランス
4位	ハンガリー
5位	アイスランド
6位	エジプト
7位	スペイン
8位	大韓民国
9位	ユーゴスラビア
10位	リトアニア
11位	チェコ
12位	ノルウェー
13位	クロアチア
14位	キューバ
15位	日本
16位	チュニジア
17位	アルジェリア
18位	イタリア
19位	ポルトガル
20位	中華人民共和国
21位	サウジアラビア
22位	アルゼンチン
23位	モロッコ
24位	ブラジル

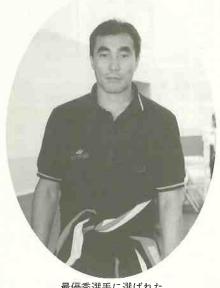
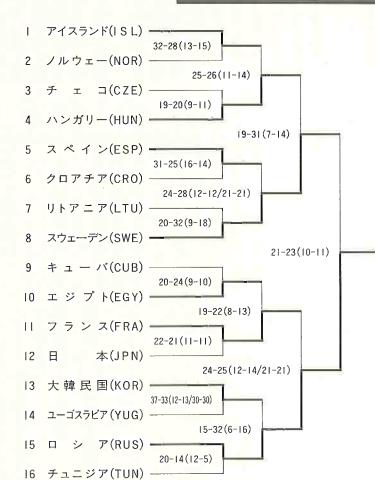
ベスト7

ポジション	選手
GK	オルソン・マッツ(スウェーデン)
右サイド	グリムソン・バルディマール(アイスランド)
右45度	オルソン・ステファン(スウェーデン)
センター	ドイシェバエフ ムカンベドウ・タラント(スペイン)
ポスト	ケルバデク・ゲリク(フランス)
左45度	クジノフ・バジリィ(ロシア)
左サイド	ゴーピン・バレーリィ(ロシア)

また、得点王は、ユン・キョーシン（韓国）が62点で獲得した。

特集 世界選手権大会

第15回男子世界選
ロシアの

決勝トーナメント FINAL

最優秀選手に選ばれた
ドイシェバエフ(スペイン)

3～4位決定戦

フランス(FRA)

ハンガリー(HUN)

5～6位決定戦

大韓民国(KOR)

エジプト(EGY)

スペイン(ESP)

アイスランド(ISL)

7～8位決定戦

スペイン(ESP)

大韓民国(KOR)

3位決定戦、フランス対ハンガリーの試合から

決勝戦、ロシア対スウェーデンの熱戦

日本チーム大健闘!!

日本チームは熊本で大健闘を見せ、前回の世界チャンピオン・フランスを相手に〝あわや〟大金星という好試合を見せました。
ここに、今回の世界選手権・熊本大会での日本チームのすべての試合をお伝えしておきましょう。（第1戦は前号でお伝えしてあるが、あらためてここに紹介しておきます。）

■日本対アイスランド

日本20（10－14　10－10）24アイスランド

第15回男子世界選手権熊本大会の開幕戦である、日本－アイスランド戦は、5月17日、パークドーム熊本において、9400人の大観衆を迎えて行われた。

スローオフはアイスランド。スタートの布陣はセンターにシグルドソン、左45度にヨハネソン、右45度にステファソン、ポストにスベインソン、両サイドにはグリムソンとベヤルナソン。一方日本は、トップに辻、両45度に中山と藤井、センターバックに魚住、両サイドには角谷とキャプテン末岡、GKに橋本でディフェンスからのスタートであった。

攻防が切り替わると、アイスランドはシグルドソンに代わりヨナーソンがディフェンスに入った。日本はセンターに富本、右45度に岩本という攻撃布陣となった。

試合開始から、日本は緊張のためか動きが悪く、開始早々ヨハネソンにカットインで先制点を許した。日本は攻撃にも精彩を欠き、逆にアイスランドの速攻を許した。これが響き、開始5分には0－4とリードを許してしまった。

その後、6分には富本の得た7mスローを末岡が決めて日本の初得点が入った。しかしアイスランドも攻撃はゆるまず、カットイン、速攻で着々と得点をあげた。20分を過ぎて、やっと日本はディフェンスも動き出した。前半残り7分には8－10と2点差まで追い上げ、場内騒然とした中での展開となった。ここからアイスランドはポスト、サイドにボールがまわり、前半は10－14で終わった。

後半に入ると3点差の攻防で一進一退の攻防が続く。後半7分過ぎ、富本のロングで12－14と詰め寄るとアイスランドもすぐにサイドからベヤナソンで返した。10分過ぎ、日本は佐々木を投入し、その佐々木がカットインを決めて14－16とと踏ん張る。ここでアイスランドにはミスが連続して出て、日本としては勝ち抜けるチャンスであったが、肝心のシュートを落としてしまった。

16分あたりからは、ゲームの流れはまたアイスランドに傾いた。20分過ぎにはこのゲーム最大差の5点差まで広げられた。日本はそれでも富本、藤井で踏ん張ったが、ヨナーソンに見事なランニングシュートを連発され、差を詰めることが出来なかった。

結局、開始の4点差のままの20－24で惜敗となった。しかし、緒戦でのこの好ゲームは、日本チームのこれまでの成果を裏づけるものであり、第2戦以降の戦いに希望を持たせた。

得点	[日本]	番号	番号	[アイスランド]	得点
0	橋本　行弘	1	5	グリムソン・バルディマール	7
0	魚住　和彦	3	6	シグルトソン・ダーグル	1
1	佐々木教裕	4	7	ヨハネッソン・パトレクール	9
6	冨本　栄次	5	8	ビヤールナソン・グスタフ	2
1	角谷　裕司	6	9	オラフソン・コンラード	0
2	中山　剛	7	10	ステファンソン・オラフール	2
2	岩本　真典	8	11	スペインソン・イエール	2
3	末岡　政広	10	12	フランフンケルソン・グートムンドゥル	0
2	藤井　孝志	13	13	ドゥラノナ・ロベルト　ジュリアン	1
0	四方　篤	16	14	オラフソン・ヤソン	0
2	茅場　清	17	15	ヨナソン・ユリウス	0
1	辻　昇一	20	16	ベルグスベインソン・ベルグスベイン	0
20		計			24

日本対アイスランド戦、ディフェンスする藤井選手

■日本対ユーゴスラビア

日本19（7－9　12－13）22ユーゴスラビア

得点	[日本]	番号	番号	[ユーゴスラビア]	得点
0	橋本　行弘	1	1	ストヤノビッチ・ゴラン	0
0	四方　篤	16	12	ペリッチ・デヤン	0
1	魚住　和彦	3	2	スクルビッチ・ドラガン	0
0	佐々木教裕	4	3	ヨキッチ・ネボイジャ	2
1	冨本　栄次	5	5	ペルニチッチ・プレドラグ	0
0	角谷　裕司	6	7	クネジェビッチ・アレクサンドル	0
7	中山　剛	7	8	ヨバノビッチ・ネデリコ	0
2	岩本　真典	8	9	ペルニチッチ・ネナド	9
3	末岡　政広	10	10	ブトウリヤ・イゴル	4
3	藤井　孝志	13	11	ストゥパル・ゴラン	5
2	茅場　清	17	13	モミッチ・ドラガン	0
0	辻　昇一	20	14	ミロサブリェビッチ・ジキツァ	2
19		計			22

日本の第2戦目（5月18日）は、第1シードのユーゴとの対戦であった。試合はまず、ユーゴ、ブトウリアのロングでの先制に始まり、ペルニチッチ、ブトウリアと3連取で0－3とリードを許した。日本は富本のロングで初得点の後、橋本がユーゴの7mスローを好セーブ。ここから橋本が当たり出し、ユーゴのサイド、ポスト、速攻からのシュートを連続して好セーブ。このあいだに日本は着々と加点し、13分過ぎには中山のロングで4－4と並んだ。ここでユーゴはたまらずチームタイムアウトを取って、流れを変えようとした。しかし試合は一進一退の展開となり13分にはふたたび7－7の同点となった。この後、ヨバノビッチ、ブトウリアに決められて、7－9での折り

日本対ユーゴ戦、すばらしいシュートを見せた中山選手

返しとなった。

後半に入ってユーゴ先行で始まったが、中山が頑張り、後半5分にはカットインで12－11とユーゴを逆転した。ここはすぐにヨバノビッチに返されるが、この後1、2点差の攻防が続く。一時4点差まで広げられたが、残り4分で藤井のポストと速攻からのシュートで2点差と詰め寄った。しかし最後にヨバノビッチのロングでとどめを刺された。

敗戦はしたものの、ユーゴと互角の試合を戦い、選手たちは自信を深めた様子で第3戦以降の戦いに大いに期待を抱かせるものであった。

日本対ユーゴ戦、若手ながらがんばった佐々木選手のシュート

■日本対サウジアラビア

日本23（15－10 8－10）20サウジアラビア

第3戦（5月21日）は2敗同士のサウジアラビアとの戦いであった。日本はユーゴ戦の勢いに乗り、開始早々から、藤井のポスト、末岡の7mスローなどで、この大会初めて立ち上がりから3－0とリードした。しかしサウジアラビアもアルヒラールなどで10分には5－5と追いつくが、日本は藤井のポストですぐさま取り返し、その後徐々にサウジアラビアのディフェンスを割り点差を広げていった。

観衆からの大きな声援が日本チームを大いに励ました

後半に入り、ゲームは5点差の攻防で続いた。残り11分あたりから得意のマンツーマンディフェンスを使ってきたが、日本としては当然予想していたことであり、中山のカットインなどで点差は縮まらない展開であった。終盤、中山の退場でピンチとなるが、橋本の好セーブもあり、3点差でサウジアラビアを振り切り、今大会初勝利となった。橋本が7mスローを4本セーブしたのが印象的であった。

得点	［日本］	番号	番号	［サウジアラビア］	得点
0	橋本　行弘	1	1	アル・シュラーファ・ハーシム	1
0	四方　篤	16	12	アル・サイード・マナーフ	0
0	魚住　和彦	3	2	アル・ゼライヒ・アブドゥルラフマン	4
1	佐々木教裕	4	3	アル・イブラヒーム・アハマド	1
3	冨本　栄次	5	4	アル・アリー・ムフェード	0
0	角谷　裕司	6	5	アル・ジェダニ・ハッサン	3
3	中山　剛	7	6	アル・オベイディ・ヤーセル	2
3	岩本　真典	8	7	アル・アックワーン・フセイン	2
3	末岡　政広	10	9	アル・ドウサリー・アブドウッラー	0
5	藤井　孝志	13	11	アル・ハルビ・バンダル	3
3	茅場　清	17	13	アル・ヒラール・ハーニー	3
2	辻　昇一	20	14	アル・ヘッジ・リヤド	1
23		計			20

■日本対アルジェリア

日本24（13－4 11－10）14アルジェリア

日本の第4戦（5月24日）は、これに勝てば決勝トーナメント進出が濃厚となる大切な試合となった。11，000人を超える大観衆の中でスローオフの笛が吹かれた。立ち上がりアルジェリアが先制するが、日本も岩本のロングですぐに取り返した。両チームとも決勝トーナメントに進出するため

得点	［日本］	番号	番号	［アルジェリア］	得点
0	橋本　行弘	1	1	エルムヘップ・カリム	0
0	四方　篤	16	3	ワシェリヤ・レドワヌ	2
2	高木　浩司	2	4	ネジェル・ハムゥ	1
0	魚住　和彦	3	5	エルハスィ・アリ	0
0	佐々木教裕	4	6	サイディ・レドワンヌ	0
5	冨本　栄次	5	8	イヤラ・カリム	4
2	中山　剛	7	9	ブワナニ・アブデルジャリル	0
4	岩本　真典	8	10	ブワニック・マフムット	2
5	末岡　政広	10	13	ラーブラウィ・ハミッド	2
2	藤井　孝志	13	16	ヘーラル・サミール	0
3	茅場　清	17	19	アバス・サリム	0
1	辻　昇一	20	20	ブズイヤヌ・モハメッド	3
24		計			14

日本対アルジェリア戦、冨本選手から中山選手へボールをつなぐ

には、落とせない試合であるため最初からエキサイティングなゲームとなり、開始5分過ぎには早くもアルジェリアに退場者が出た。日本はアルジェリアがミスを重ねる内に、冨本のカットイン、末岡のサイドで10分過ぎには、6－1と完全に主導権を握った。アルジェリアは強引な攻めで7mスローを得るも、GK橋本の好セーブで得点につながらない。結局前半は日本の良さばかりが目立ち、13－4の大差で折り返すことになった。後半に入ってもアルジェリアは得意のアルジェディフェンスを仕掛けるが、用意万端の日本はディフェンスの間を駆けめぐり着々と加点をしていった。またGK橋本の活躍は見事であった。7mスロー3本をすべてセーブしたことは特筆されるだろう。

　これで2勝をあげた日本は最終のリトアニア戦に勝つか引き分けで決勝トーナメント進出が決まる。もし負けてもアルジェリアが負ければ直接対決で勝っているため、決勝トーナメントに進出することとなった。

日本のゴールを死守したＧＫ橋本行弘選手

■日本対リトアニア

日本15（7－11 / 8－13）24リトアニア

得点	[日本]	番号	番号	[リトアニア]	得点
0	橋本　行弘	1	1	ワシケービチュス・アルーナス	0
0	四方　　篤	16	2	ヤンケービチュス・ライスイダス	9
2	高木　浩司	2	3	ポージュウィリス・ロベルタス	0
2	魚住　和彦	3	6	ビラニシキス・ギンタラス	3
0	佐々木教裕	4	7	サブキーナス・ギンタラス	0
1	冨本　栄次	5	8	ゲドビラス・アルギルダス	1
4	中山　　剛	7	10	マルツインケービチュス・ユリュス	0
2	岩本　真典	8	13	ブチース・ゲデイミナス	5
3	末岡　政広	10	14	ステルモーカス・アンドリュス	3
0	藤井　孝志	13	15	ラスイケービチュス・ダリュス	2
0	茅場　　清	17	16	サボーニス・アウマンタス	0
1	辻　　昇一	20	18	チャルネウスカス・キエドリュス	1
15		計			24

　前半立ち上がりから、リトアニアはセンター冨本にマンツーマンディフェンスを仕掛けてくる。予想外の展開にとまどう日本だが、中山のシュートで先制し、幸先のよいスタート。両GKの好セーブもあって一進一退の展開。2番ヤンケービチュスのパワーに押され、残り5分間で連続得点を許し7－11の4点差で折り返し、後半に期待が膨らむ。

　後半立ち上がりの橋本のナイスセーブで追いかけに期待がかかる。さらには岩本のサイドシュートで3点差。4分、エース中山の負傷退場。代わった魚住の連続得点で波に乗るかと思えたが、ヤンケービチュスのパワープレーを止められず、徐々に得点が開く。たまらず、13分56秒、オルソン監督はタイムアウトを取り、追い上げに向けて策を与えるが、差は開くばかり。4分15秒、魚住の速攻の後18分間日本は得点ができず、悪い雰囲気。GK橋本の必死の守りで、チャンスを狙うが空回りするばかり。その間もリトアニアはロング、速攻と得点を重ね、残り5分で12－22と10点差で試合を決定づける。あきらめない日本は高木の連続サイドシュートで追いかけるが、15－24でタイムアップ。自力での決勝トーナメント進出は成らず、第4試合ユーゴスラビア対アルジェリアの結果待ちとなる。

　ポスト藤井は無得点で、シュートも1本で展開も完全につぶされたことになる。対して、リトアニアは2番ヤンケービチュスに9点を決められ、うち6点はロングシュートとパワーの違いを感じさせられた。

　しかしながら、最後まであきらめず、果敢にゴールに向かう日本チームの姿は見ている我々に勇気を与えてくれた。持てる力のすべてを出し尽くし、我々に世界に近づいた実感を与えてくれ、夢の実現の近いことを予感させてくれた日本チームとオルソン監督ありがとう。

■日本対フランス

日本21（11−11／10−11）22フランス

得点	[日本]	番号	番号	[フランス]	得点
0	橋本　行弘	1	1	ゴダン・クリスチャン	0
1	高木　浩司	2	3	ビルトベルジェ・マルク	5
1	魚住　和彦	3	4	ルベルディ・ヤニック	0
1	冨本　栄次	5	5	ジル・ギョーム	1
5	中山　剛	7	7	ケルバデク・ゲリク	3
3	岩本　真典	8	8	コルディニィ・ステファヌ	1
3	藤井　孝志	13	9	カザル・パトリック	0
0	杉山　裕司	14	14	ズゾ・セミール	0
0	四方　篤	16	15	ジュラン・ステファヌ	2
3	茅場　清	17	16	フランク・フランシス	0
0	山口　修	18	17	リシャーソン・ジャクソン	1
4	辻　昇一	20	18	ストェックリン・ステファン	9
21	計				22

日本は前回優勝のフランスと戦うことになり、日本の劣勢は動かせないと思われた。立ち上がり日本チームの固さが目立ち、ミスから速攻を許し3−0とリードされるが、サイドシュート、速攻などでシュートチャンスをつくり、7mスローをゲット、日本チームは4連続7mスローによる得点で6−4とくらいついていくが、フィールドゴールによる得点がなく、いま一つ波に乗れない。しかし、17分、日本の5点目となるゴールが、右のエース中山のロングシュートで予選リーグの日本らしさをとりもどした。その後一進一退の攻防が続き、前半を11−11とイーブンで折り返した。

後半、魚住の2ゴール連取で優位にゲームを進め、GK橋本の再三のナイスキーピングもあり、11分間を2点に押さえ込み18−13と5点の差をつけ、日本のハンドボール界の歴史を変える奇跡が起こると1万人の観客は興奮状態であった。しかし、16分過ぎ、20−15としたところから日本は勝ちを意識したか、レフェリーの微妙な判定も手伝ってか、浮き足立ってしまい、13分間得点がなく、その間にフランスが同点に追いつき、ラスト4分の攻防で運命が決まることとなった。

26分30秒に勝ち越しとなる7mスローを岩本がゴール上段につきさし、パークドームはお祭り騒ぎ、フランスも29分13秒、テクニシャンのリシャードソンがカットインからGK橋本が前へつめた所をかわしてゴールイン、日本もラスト20秒でゴールキーパーをベンチにさげて7人攻撃をしかけたが、パスミスからフランスが速攻、フリースローとして延長かと思われた瞬間、ラスト0・2秒のところで右サイドからビルトベルジェがサイドシュート、これが右角に決まり夢は断たれた。

日本の選手、ベンチ、観客は静まり返り言葉を失った。

14カ月前、オルソンジャパンがスタートしたが、確実に力をつけ強化策が成功し、結果を出し、世界のトップに一歩近づいた記念すべき日となった。

橋本行弘ゴールキーパー成績

	7mスロー%		トータル%	
第1戦　アイスランド	1/3	33.3	9/33	27.3
第2戦　ユーゴスラビア	1/2	50.0	12/34	35.3
第3戦　サウジアラビア	4/6	66.7	11/31	35.5
第4戦　アルジェリア	3/3	100.0	11/23	44.0
第5戦　リトアニア	0/2	0	9/33	27.3
決勝トーナメント　フランス	0/4	0	18/40	45.0
トータル	9/20	45.0	70/194	36.1

日本チーム選手得点表

	アイスランド	ユーゴスラビア	サウジアラビア	アルジェリア	リトアニア	フランス	計
橋本　行弘	0	0	0	0	0	0	0
四方　篤	0	0	0	0	0	0	0
高木　浩司	−	−	−	2	2	1	5
魚住　和彦	0	1	0	0	2	1	4
佐々木教裕	1	0	1	0	0	−	2
冨本　栄次	6	1	3	5	1	1	17
角谷　裕司	1	0	0	−	−	−	1
中山　剛	2	7	3	2	4	5	23
岩本　真典	2	2	3	4	2	3	16
末岡　政広	3	3	3	5	3	−	17
藤井　孝志	2	3	5	2	0	3	15
杉山　裕一	−	−	−	−	−	0	0
茅場　清	2	2	3	3	1	3	14
山口　修	−	−	−	−	−	0	0
辻　昇一	1	0	2	1	0	4	8
合　計	20	19	23	24	15	21	122

別成績表

グループA

	アイスランド	ユーゴスラビア	リトアニア	日　本	アルジェリア	サウジアラビア	試合数	勝	分	敗	得失点差	ポイント
アイスランド		11−9 ○27−18	10−8 ○21−19	14−10 ○24−20	15−13 △27−27	15−12 ○25−22	5	4	1	0	124　106　18	9
ユーゴスラビア	9−11 ●18−27		17−10 ○29−21	9−7 ○22−19	14−12 ○28−24	15−11 ○32−20	5	4	0	1	129　111　18	8
リトアニア	8−10 ●19−21	10−17 ●21−29		11−7 ○24−15	10−10 △19−19	12−6 ○27−18	5	2	1	2	110　102　8	5
日　本	10−14 ●20−24	7−9 ●19−22	7−11 ●15−24		13−4 ○24−14	15−10 ○23−20	5	2	0	3	101　104　−3	4
アルジェリア	13−15 △27−27	12−14 ●24−28	10−10 △19−19	4−13 ○14−24		6−3 ○19−14	5	1	2	2	103　112　−9	4
サウジアラビア	12−15 ●22−25	11−15 ●20−32	6−12 ●18−27	10−15 ●20−23	3−6 ●14−19		5	0	0	5	94　126　−32	0

グループB

	フランス	スウェーデン	韓　国	ノルウェー	イタリア	アルゼンチン	試合数	勝	分	敗	得失点差	ポイント
フランス		12−14 ○29−26	16−11 ●26−27	11−10 ○23−20	12−10 ○25−21	12−8 ○24−20	5	4	0	1	127　114　13	8
スウェーデン	14−12 ●26−29		21−9 ○36−21	12−8 ○24−17	8−10 ○19−17	17−6 ○36−17	5	4	0	1	141　101　40	8
韓　国	11−16 ○27−26	9−21 ●21−36		11−8 △21−21	12−9 ○27−22	19−13 ○32−22	5	3	1	1	128　127　1	7
ノルウェー	10−11 ●20−23	8−12 ●17−24	8−11 △21−21		9−10 △19−19	14−9 ○27−22	5	1	2	2	104　109　−5	4
イタリア	10−12 ●21−25	10−8 ●17−19	9−12 ●22−27	10−9 △19−19		10−3 ○21−15	5	1	1	3	100　105　−5	3
アルゼンチン	8−12 ●20−24	6−17 ●17−36	13−19 ●22−32	9−14 ●22−27	3−10 ●15−21		5	0	0	5	96　140　−44	0

グループ

グループC

	スペイン	エジプト	チェコ	チュニジア	ポルトガル	ブラジル	試合数	勝	分	敗	得失点差	ポイント
スペイン		10−11 △19−19	13−11 ○29−26	13−11 ○32−21	12−11 ○29−26	15−3 ○32−11	5	4	1	0	141　103　38	9
エジプト	11−10 △19−19		12−11 ○24−22	12−8 ○24−17	12−14 ○29−25	18−4 ○33−11	5	4	1	0	129　94　35	9
チェコ	11−13 ●26−29	11−12 ●22−24		10−12 ○19−18	14−11 ○28−24	12−6 ○24−10	5	3	0	2	119　105　14	6
チュニジア	11−13 ●21−32	8−12 ●17−24	12−10 ●18−19		9−7 ○19−18	11−6 ○17−15	5	2	0	3	92　108　−16	4
ポルトガル	11−12 ●26−29	14−12 ●25−29	11−14 ●24−28	7−9 ●18−19		13−7 ○26−18	5	1	0	4	119　123　−4	2
ブラジル	3−15 ●11−32	4−18 ●11−33	6−12 ●10−24	6−11 ●15−17	7−13 ●18−26		5	0	0	5	65　132　−67	0

グループD

	ロシア	ハンガリー	キューバ	クロアチア	中　国	モロッコ	試合数	勝	分	敗	得失点差	ポイント
ロシア		13−7 ○24−19	17−9 ○31−17	15−7 ○31−20	20−6 ○34−15	14−7 ○30−13	5	5	0	0	150　84　66	10
ハンガリー	7−13 ●19−24		11−8 ○22−21	8−10 ○23−20	20−12 ○39−19	10−8 ○25−19	5	4	0	1	128　103　25	8
キューバ	9−17 ●17−31	8−11 ●21−22		13−13 △23−23	19−9 ○32−21	17−6 ○35−20	5	2	1	2	128　117　11	5
クロアチア	7−15 ●20−31	10−8 ●20−23	13−13 △23−23		17−9 ○34−21	14−7 ○26−17	5	2	1	2	123　115　8	5
中　国	6−20 ●15−34	12−20 ●19−39	9−19 ●21−32	9−17 ●21−34		13−8 ○25−21	5	1	0	4	101　160　−59	2
モロッコ	7−14 ●13−30	8−10 ●19−25	6−17 ●20−35	7−14 ●17−26	8−13 ●21−25		5	0	0	5	90　141　−51	0

7M Throw		Total Shots		G
S/A	%	S/A	%	
2/11	18.2	89/301	29.6	9
9/20	45.	70/194	36.1	6
4/13	30.8	64/163	39.3	9
6/17	35.3	62/175	35.4	6
4/21	19.	61/211	28.9	9
3/13	23.1	52/125	41.6	8
4/17	23.5	52/152	34.2	9
8/27	29.6	49/155	31.6	9
1/10	10.	48/107	44.9	9
2/15	13.3	42/138	30.4	8
1/10	10.	39/137	28.5	6
1/10	10.	38/107	35.5	8
2/10	20.	38/150	25.3	6
4/19	21.1	37/133	27.8	5
5/13	38.5	36/148	24.3	6

男子世界選手権・熊本

個人ランキング

順位	番号	名前	国名	シュート				A	TO	ST	反則				G
				FIELD	7M	M/A	%				WARN	2M	DIS	EXC	
1	13	ユン・キョーシン	韓国	50/92	12/18	62/110	56.4	23	11	1	7	5			9
2	6	エーレシェ・ヨージェフ	ハンガリー	42/56	17/23	59/79	74.7	24	20	3	3	2			9
3	5	グリムソン・バルディマール	アイスランド	34/52	18/24	52/76	68.4	3	5		1				9
4	4	マブルック・アシュラフ	エジプト	28/42	22/27	50/69	72.5	17	16		1	2			9
4	9	ローブグレン・ステファン	スウェーデン	32/46	18/24	50/70	71.4	35	17	2		3			9
4	18	ストェックリン・ステファン	フランス	37/72	13/18	50/90	55.6	25	9		3	2			9
7	10	ドイシェバエフ　ムカンベドヴ・タラント	スペイン	49/74		49/74	66.2	42	15	4		4	1		9
8	14	レイナルド・カルロス	キューバ	32/56	16/23	48/79	60.8	24	15	1	4	5			6
9	9	クジノフ・バジリィ	ロシア	41/55	2/3	43/58	74.1	37	12	1		1			9
9	2	マシップ　ボラス・エンリック	スペイン	23/32	20/27	43/59	72.9	32	9	4	4	5			9
11	7	ヨハネッソン・パトレクール	アイスランド	40/58		40/58	69.	18	8		4	9			9
11	19	ペルニチッチ・ネナド	ユーゴスラビア	36/57	4/6	40/63	63.5	12	16		2	7			6
13	19	ポゴレーロフ・セルゲィ	ロシア	39/49	0/1	39/50	78.	28	20		1	3			9
14	8	ゴーピン・バレーリィ	ロシア	25/34	13/20	38/54	70.4	23	10	1		2			7
15	13	オルソン・ステファン	スウェーデン	37/62		37/62	59.7	46	20	2	7	6	1		9
15	10	チョ・チ　ヒョ	韓国	35/67	2/4	37/71	52.1	17	19	1	2	3			9
17	11	トロゴバノフ・ドミトリィ	ロシア	36/42		36/42	85.7	10	13		1	5			9
17	15	ベッラジャア・モハメド	モロッコ	26/37	10/12	36/49	73.5	15	24	2	2	1	2		5
19	9	ガラルダ・ラルンベ・マテオ	スペイン	35/52		35/52	67.3	19	15		1	3			8
19	2	ベルゲンディ・ゾルタン	ハンガリー	35/57		35/57	61.4	17	20		1	3			9
21	3	ビスランデル・マグナス	スウェーデン	34/54		34/54	63.	24	11	1	6	6			9
22	3	パルコバッツ・ゴラン	クロアチア	15/27	17/19	32/46	69.6	20	17	1		3			6
23	7	フレンデショー・マッティン	スウェーデン	31/52		31/52	59.6	4	2		2	1			9
24	6	ウリオス　フォンセカ・ロランド	キューバ	29/41		29/41	70.7	7	11		3	4			6
24	13	ブチース・ゲデイミナス	リトアニア	28/39	1/2	29/41	70.7		7		1	1			6
24	4	シベットソン・トーマス	スウェーデン	29/41		29/41	70.7	3	5		4	8			9
24	15	ジュラン・ステファヌ	フランス	28/44	1/1	29/45	64.4	4	7	3	2	1			7
28	11	スベインソン・イエール	アイスランド	28/32		28/32	87.5	5	9		5	9			9
28	7	ケルバデク・ゲリク	フランス	28/36		28/36	77.8	6	8	2	2	5			9
28	3	ビルトベルジュ・マルク	フランス	25/41	3/3	28/44	63.6	16	20		1	8			9
28	19	チョ・ボム　ヨン	韓国	28/44		28/44	63.6	23	15		4	4			7

順位	番号	名前	国名	6M Shots		Wing Shots		9M Shots		Break Through		Fast Breaks	
				S/A	%	S/A	%	S/A	%	S/A	%	S/A	%
1	12	イ・ソクヒュン	韓国	5/48	10.4	18/42	42.9	42/93	45.2	9/37	24.3	13/70	18.6
2	1	橋本行弘	日本	12/25	48.	17/34	50.	26/69	37.7	1/24	4.2	5/22	22.7
3	1	ラブローフ・アンドレイ	ロシア	7/26	26.9	11/19	57.9	33/73	45.2	0/5	0.	9/27	33.3
4	16	リベリ　エルナンデス・ブラディミル	キューバ	9/28	32.1	15/30	50.	22/45	48.9	4/18	22.2	6/37	16.2
5	1	サトマーリ・ヤーノシュ	ハンガリー	2/16	12.5	8/28	28.6	38/89	42.7	0/18	0.	9/39	23.1
6	12	ゲンツェル・ペーテル	スウェーデン	9/25	36.	6/11	54.5	24/49	49.	3/9	33.3	7/18	38.9
6	1	オルソン・マッツ	スウェーデン	6/14	42.9	6/20	30.	27/67	40.3	3/8	37.5	6/26	23.1
8	12	フラフンケルソン・グートムンドゥル	アイスランド	2/14	14.3	10/26	38.5	21/58	36.2	3/14	21.4	5/16	31.3
9	12	スコシャン・パベル	ロシア	1/6	16.7	5/10	50.	38/69	55.1	1/5	20.	2/7	28.6
10	16	ベルクスベインソン・ベルグスベイン	アイスランド	6/15	40.	12/22	54.5	19/57	33.3	0/13	0.	3/16	18.8
11	1	エーゲ・スタイナル	ノルウェー	5/16	31.3	3/12	25.	22/65	33.8	3/6	50.	5/28	17.9
12	16	ソリマン・アイマン	エジプト	7/19	36.8	4/11	36.4	19/40	47.5	2/11	18.2	5/16	31.3
12	12	サナー・リアド	チュニジア	2/16	12.5	8/24	33.3	13/43	30.2	4/16	25.	9/41	22.
14	12	アル・サイード・マナーフ	サウジアラビア	3/20	15.	7/13	53.8	10/31	32.3	6/19	31.6	7/31	22.6
15	16	マトシェビッチ・バルテル	クロアチア	6/23	26.1	7/20	35.	15/51	29.4	1/19	5.3	2/22	9.1

ゴールキーパーランキング(全シュート)

ゴールキーパーランキング(7mスロー)

順位	番号	名前	国名	SAVES	ATTEMPT	%	Games
1	1	ニーデビーゼル・ミカエル	イタリア	9	16	56.3	5
1	1	橋本行弘	日本	9	20	45.	6
3	12	フラフンケルソン・グートムンドゥル	アイスランド	8	27	29.6	9
4	16	リベリ　エルナンデス・ブラディミル	キューバ	6	17	35.3	6
5	16	マトシェビッチ・バルテル	クロアチア	5	13	38.5	6
6	12	マルティニ・ブルノー	フランス	4	10	40.	5
6	12	ヌニュス　カレテーロ・ジョルディ	スペイン	4	11	36.4	6
6	1	ラブローフ・アンドレイ	ロシア	4	13	30.8	9
6	1	オルソン・マッツ	スウェーデン	4	17	23.5	9
6	12	アル・サイード・マナーフ	サウジアラビア	4	19	21.1	5
6	1	サトマーリ・ヤーノシュ	ハンガリー	4	21	19.	9
12	1	ストヤノビッチ・ゴラン	ユーゴスラビア	3	8	37.5	4
12	12	ハケム・トゥーフィック	アルジェリア	3	8	37.5	3
12	16	バルフェト　ボフィル・ダビッド	スペイン	3	9	33.3	6
12	16	ワン・ビン	中国	3	11	27.3	3
12	12	ゲンツェル・ペーテル	スウェーデン	3	13	23.1	8
12	1	ワシケービチュス・アルーナス	リトアニア	3	14	21.4	6
12	12	モルガド・パウロ	ポルトガル	3	16	18.8	5

大会の話題から

追加登録で混乱

日本では考えられないことであるが、メンバー表が提出される時点で、新たにメンバーが追加登録された。一応、大会前日の代表者会議で確定メンバーが登録されたのではあるが、規定では16名に満たないチームは、16名になるまで追加が許されるとのこと。当初このことがわからず、オフィシャル、記録等で大変な混乱をきたした。追加登録されたことがわかるのが、試合開始15分程前であるため、この対応に大わらわであった。しかし、そこは機動力のある運営で何とか乗り切った。

また、ユーゴスラビアは、登録と違う背番号で登場した。これも準備と違っていたため大混乱。この件については、IHFからきついお叱りが出た。

観客動員で世界記録

日本チームの活躍で、パークドームを始め各会場には大勢の観客がつめかけた。大会初日から、パークドームでは会場前に長蛇の列。2日目には、混乱をさけるため、会場時間を早めた程である。

他の会場では、席数が少ないため、立ち見が多く出る有様であった。

予選が進むにつれて、TV放映での影響か、ますます入場者が増え、当日券売り場の前にも長蛇の列ができた。

日本対アルジェリア戦では、1万人収容のパークドームに1万3千3百人もの観客がつめかけ、大歓声のるつぼと化した。

予選終了時点で、目標の10万人は軽く突破して、13万人にのぼった。決勝トーナメントに向けますます増加が期待された。

最終的には207、679人の入場数があり、今までの記録を大幅に塗り替え世界記録の達成となった。

～インフォメーションデスクから～

IHF関係者の第一陣は準備のため、5月11日には早くも熊本入り。その日にあわせて関係者の宿泊先であるホテルキャッスルにインフォメーションデスクがオープンした。営業（?）時間はおおまかにいって午前9時からその日の全試合が終了してレフェリーをはじめ、IHF役員がホテルに戻り一段落するまでである。

◇　◇　◇

デスクには大会公式プログラム、試合日の翌日に発行されるデイリーマッチリポートとデイリーニュース〝Hyuta News〟、大会運営ガイド〝agyan kogyan〟(外国語のような名前?実は熊本弁で〝あれこれ〟の意味)、ホテル周辺地図、英語版の熊本市内地図、熊本県ガイドブックなどを並べたほか、各会場へのシャトルバス、プレス用バスなどの時刻表、大会用イエローページを備えて、30カ国近くにものぼるIHF関係者からの各種の問い合わせに応じた。一般情報と試合関連情報を張り出していた掲示板はすぐに一杯になり、急遽あと一枚追加した。

～エピソードをいくつか～

IHF関係者にはホテルから試合会場までは組織委員会で用意した車に乗ってもらうことになっている。試合のないある日、市電に乗ってみたある役員。言葉はわからなかったが、地元の人々と触れ合う機会を持てたことが余程嬉しかったらしく、翌日もこちらの手配する車には乗らず、市電で体育館へと御出勤。

◇　◇　◇

その名が示すように日本三名城の一つである熊本城はホテルのすぐ目の前。レフェリー、役員だけでなく、関連会社のVIPもホテルから熊本城を眺めるだけでなく、毎朝のジョギングコースとして城内を利用していたようである。健康管理に気をつけるその生活ぶりはさすが。

◇　◇　◇

あるレフェリーが、試合会場のレフェリー控え室にアンダーショーツを忘れたことを翌日になってインフォメーションデスクに申告。使用済みのショーツは無事見つかり本人へ。企画されたエクスカーションは、バス1台の定員一杯のために申し込みはもうできないとお断りしたところ、レフェリー自ら他のレフェリーに聞いて回ってもう1台分の人員をあっという間に集めてしまった。レフェリーたちの団結の良さはたいしたもの。

◇　◇　◇

ハンドボールにはほとんど縁のなかったホテルのスタッフも、連日報道される大会の雰囲気にいつの間にか交代で会場に足を運ぶようになっていた。そして5月27日。決勝ラウンドに進んだ日本チーム

の第1戦、相手は前回優勝国のフランス。これは難しいと半ばあきらめておとなしくデスクに座っていた私たちのところに、事務室でテレビ中継を見てきたホテルのスタッフの方がやってきて興奮気味に「日本が勝っていますよ！」。その後は仕事そっちのけでみんなでテレビ観戦。ホテルのロビーからは人がいなくなってしまい、残り数秒で決勝点を決められてしまったその瞬間、事務室全体がどよめきとため息に包まれた。

“Dear handball friends”

“Dear handball friends,”これがＩＨＦとの、あるいは各国ハンドボール連盟どうしでの文書をやりとりするときの書き出しである。ＩＨＦからのＦＡＸでこの呼びかけの言葉をはじめて見たときには、何だか奇妙な感じがしたが、このデスクで仕事をした間に、この言葉の意味を本当に理解できたように思う。予選ラウンドが終わって数組のレフェリーが帰国。アルゼンチンに帰るレフェリーとアイスランド人であるＩＨＦのスタインバッハＰＲＣ委員長（いわば審判長）が別れを惜しんで抱擁。普段は地球の北と南、それぞれの国でハンドボールの普及・発展に取り組んでいるハンドボールフレンズたちがお互いのことを思いやっている。まさに“One Ball One World”ハンドボールで結ばれた彼らの絆を見た。

◇　◇　◇

■熊本、国際色豊かな街に変身

ヨーロッパ以外で初の世界選手権（男子）が開催されることに、熊本では、大会関係者以外の人々からも、大きな関心が寄せられていた。

熊本市のメインストリートのひとつ、上通り商店街では、開催を歓迎する看板や参加各国の国旗が掲げられ、日頃の商店街のにぎやかさ華やかさに、一層の彩りを加えていた。また、道行く人たちも見慣れた肥後っ子よりひとまわりも大きな外国の選手たちに、驚きとともに親しげな視線を投げかけていた。なかには、ジャージ姿で商店街を闊歩する選手たちに、何ごとか話しかけるおかみさんの姿もあり、身ぶり手振りでひとときの国際交流を楽しんでいた。

来日した選手は異国の言葉が飛び交う熊本で、市内散策、阿蘇見学と激しい試合の合間をぬっての観光も楽しんでいた。また、ノルウェーチームのサポーターのようにチームの応援を兼ねて来熊している人たちもいた。リュックに国旗をさし、熊本市内を歩き回るその姿は、冬季五輪のノルウェー応援団を髣髴とさせるものがあった。

大会期間中、熊本も国際色豊かな街に変身し、世界にその名を知られることになった。一方、スポーツ大会開催のノウハウも蓄積でき、国体へ向けて大きな財産を得たようだ。

日本人レフェリーとして初めて男子世界選手権を担当

ＩＨＦトップレフェリーに選ばれていた後藤、清水ペアーは、18日のフランス－イタリア戦で男子世界選手権レフェリーとしてデビューした。オリンピックでは後藤、島田組でバルセロナオリンピックでデビューを果たしているが、男子世界選手権では初めてのことである。試合の方は25－21と白熱したゲームとなった。後半には激しく感情を表現するイタリアのチェルバル監督にイエローカードを出し、適切に試合を管理した。チェルバル監督は、「自分が悪かったなら謝りたい」と反省の弁であった。このことは地元熊本日々新聞、朝日新聞、西日本新聞などにも大きく報道され、ハンドボール審判の存在を示したことは喜ばしいことであった。

このほかにも、スウェーデン－イタリア戦、キューバ－モロッコ戦を担当した。

◇　◇　◇

■ハンドボールフリーク現れる

パークドーム会場の駐車場にテントを張って住み着いていた人がいた。

この人は、北海道教育大学旭川分校を今年卒業したばかりの、中村将博君。学生時代は東日本インカレに出場したこともある経歴の持ち主。現在は札幌在住だそうだが、世界選手権を見るために、わざわざ北海道から来ているとのこと。昼間は駐車場に車がたくさん来るため追い出されたようであるが、各会場を廻り、大いにハンドボールを堪能している様子。ＣＳ放送のエキサイティングハンドボールも欠かさず見ているそうで、まさにハンドボールフリーク。このような人が多く集まり、ノルウェー応援団のように海外の大会にも大挙して出かけるようになればと思う次第です。

第15回男子世界選手権大会 TEAM MEMBERS

チェコ

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ストフル・ヤン	1975/2/3	201	87	24	0
12	クチェルカ・ヨゼフ	1971/1/24	186	86	33	1
16	バデュラ・ロスチスラフ	1975/3/3	184	91	17	0
2	ハラホベッツ・パベル	1974/3/24	174	73	18	59
3	ベチバジュ・ロマン	1966/7/2	195	90	128	333
4	シュマ・ブラジミル	1971/6/15	192	85	73	178
5	ユジーチェック・ダビド	1974/8/8	187	81	3	3
6	セトリーク・マルチン	1969/8/12	197	98	176	567
7	ブレハ・アドルフ	1971/1/17	187	93	60	135
11	フィリップ・ヤン	1973/6/14	188	81	16	26
8	ハズル・ペトル	1971/8/29	182	80	95	214
9	トナル・ミハル	1969/9/23	193	92	143	461
10	バニェック・ズデニェック	1968/7/19	201	103	166	333
13	タンコス・ジリ	1972/3/30	193	87	20	50
14	ボクル・トマシュ	1973/10/3	193	94	51	125
15	パウザ・パベル	1967/6/28	188	86	68	132

アルジェリア

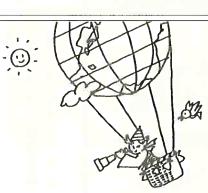
番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	エルムヘッブ・カリム	1966/10/18	188	90	160	
3	ワシェリヤ・レドワヌ	1969/11/10	176	79	80	120
4	ネジェル・ハムゥ	1972/6/5	190	93	60	140
5	エルハスィ・アリ	1972/3/15	187	85	30	100
6	サイディ・レドワンヌ	1971/5/13	173	83	50	20
7	ベグワッシュ・ベナリ	1967/2/5	190	94	30	
8	イヤラ・カリム	1967/3/11	184	74	45	50
9	ブワナニ・アブデルジャリル	1966/7/27	184	90	120	70
10	ブワニック・マフムット	1967/1/1	194	96	160	
11	ゲルビ・ラバー	1970/9/3	185	85	120	60
12	ハケム・トゥーフィック	1972/9/30	188	85	30	
13	ラーブラウィ・ハミッド	1972/7/5	190	83	40	
14	ハマッド・アブデレザック	1975/6/25	180	75	20	
16	ヘーラル・サミール	1971/2/15	180	76	40	
19	アバス・サリム	1970/10/17	190	90	80	
20	ブズィヤヌ・モハメッド	1971/4/23	187	88	50	20

エジプト

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	シャラフ　エルディン・モハメド	1974/12/23	170	80	120	
2	エルアッタール・アハメド	1967/4/13	202	102	150	
4	マブルック・アシュラフ	1972/6/1	196	102	180	
5	フッセイン・マハムード	1972/8/27	191	99	159	
6	エルカサビィ・アーセル	1966/7/31	180	78	200	
8	ナビル・ゴハル	1973/1/31	186	88	150	
9	アブルマグド・マグディ	1972/10/10	180	85	100	
10	ヘガジ・シェリフ	1974/4/29	185	83	70	
11	エルアルフィ・アイマン	1974/9/27	179	82	70	
12	ナキブ・モハメド	1974/4/6	190	98	130	
13	エルギユシ・アムロ	1971/7/1	186	95	170	
14	ラガブ・マラワヌ	1974/3/8	185	95	100	
15	マブルック・ハゼム	1973/11/22	180	80	60	
16	ソリマン・アイマン	1966/8/5	189	98	220	
17	ベラール・アハメド	1968/3/12	190	88	180	
19	アブド・エル・ヴァレス・サメー	1971/8/3	195	100	170	

チュニジア

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	シャケール・ラサッド	1973/8/25	193	96	10	
4	ベル・ハレス・アフィフ	1969/3/13	193	87	126	
5	トルキ・ヒシェム	1968/8/8	188	98	122	
6	シアウド・ソブヒ	1975/7/17	187	82	5	
7	ベル・ハレス・アドネネ	1967/1/1	195	90	159	
8	マディ・モハメッド	1967/9/12	195	82	118	
9	ザグアニ・カリム	1969/5/17	185	78	142	
10	マディ・アリ	1976/5/21	175	76	24	
11	ルアティ・ガジィ	1975/8/25	186	75	49	
12	サナー・リアド	1965/5/13	192	92	242	
13	メサウーディ・モハメド	1973/3/14	180	82	25	
14	ベン・ショイカ・モエズ	1971/3/28	186	77	93	
15	ベン・サイヤール・ネジブ	1971/6/26	180	80	44	
16	メスティリ・サミ	1969/8/17	193	85	74	
17	ベン・アモール・ワリッド	1976/5/24	190	88	25	
19	デバビ・イメド	1968/1/16	185	85	120	

第15回男子世界選手権大会 TEAM MEMBERS

スウェーデン

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	オルソン・マッツ	1960/1/12	196	88	285	2
12	ゲンツェル・ペーテル	1968/10/12	194	92	48	
16	スタンキービッチ・ヤーン	1969/4/24	195	99	58	
2	ヘディーン・ロベット	1966/2/2	198	99	179	326
3	ビスランデル・マグナス	1964/2/22	192	91	257	725
4	シベットソン・トーマス	1965/2/21	195	99	96	235
5	リンドグレン・オーラ	1964/2/29	192	90	255	428
7	フレンデショー・マッティン	1971/7/18	195	96	43	105
8	ペーテルション・ヨーハン	1973/3/29	182	84	70	198
9	ローブグレン・ステファン	1970/12/21	190	91	96	272
11	トールソン・ピエッレ	1966/6/21	189	80	179	413
13	オルソン・ステファン	1964/3/26	199	94	246	549
14	アンデルソン・マグヌス	1966/5/17	180	76	181	673
15	ラーション・アンドレアス	1974/8/13	185	80	47	127
17	ブランイエス・リュボミール	1973/10/3	166	80	12	14

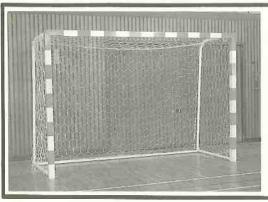
クロアチア

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
16	マトシェビッチ・バルテル	1970/6/11	193	89	75	
12	ロセルト・ベニオ	1976/7/25	190	84	31	
2	イェルチッチ・ブラデミル	1968/10/10	189	84	50	138
3	パルコバッツ・ゴラン	1962/9/16	186	84	71	187
4	スマイラギッチ・イルファン	1961/10/16	188	85	69	267
5	ヨビッチ・ボジダル	1972/2/13	202	102	58	115
6	プルスカロ・ムラーデン	1968/6/16	180	90	14	24
7	ファルカス・トミスラヴ	1971/10/4	190	90	65	166
8	ピリッチ・ズボニミル	1971/9/22	195	86	70	191
9	クリャイッチ・ネナッド	1966/12/21	195	100	65	175
10	ジョンバ・ミルザ	1977/2/28	190	79	8	20
11	ミクリッチ・ゾラン	1965/10/24	195	95	17	33
13	チャバル・パトリック	1971/3/24	190	89	88	489
14	イェルコビッチ・ゴラン	1976/9/15	197	92	10	5
15	ゴルシャ・ズラブコ	1971/9/17	195	95	75	163
17	メトリチッチ・ペタル	1976/12/25	194	83	2	3

ハンガリー

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	サトマーリ・ヤーノシュ	1969/3/25	183	86	174	
12	ペルゲル・ジョルト	1970/2/23	183	80	52	
16	チェチャーク・ティボル	1968/8/26	185	84	4	
8	ベンドー・チャバ	1973/11/30	184	90	38	
2	ベルゲンディ・ゾルタン	1969/3/21	195	90	2	
6	エーレシュ・ヨージェフ	1969/2/16	189	80	134	
11	チョクニアイ・イシュトバーン	1964/10/24	200	100	115	
7	グヤーシュ・イシュトバーン	1968/4/2	185	88	43	
10	ケルテース・バラージュ	1970/2/3	184	76	75	
3	キシュ・アーコシュ	1975/12/31	199	98	19	
5	メゼエ・リハールド	1970/10/23	196	120	86	
15	パーストル・イシュトバーン	1971/6/5	190	84	79	
13	ロシュタ・ミクローシュ	1969/7/31	195	110	30	
4	ショートニ・ラースロー	1970/4/20	190	86	138	
9	ズッブユック・イゴール	1961/3/2	182	75	26	
14	シグモンド・ジョルジ	1969/6/18	190	98	70	

ノルウェー

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	エーゲ・スタイナル	1972/4/10	192	92	59	1
12	シェイエ・フローデ	1967/3/19	193	95	39	0
16	バルスタ・シンドレ	1972/9/30	196	90	22	0
2	ソールベルグ・グレン	1972/2/18	187	86	51	118
3	バトネ・スティアン	1974/5/10	197	104	50	87
4	ラウリッツェン・ヤン	1974/2/6	192	88	67	99
5	トルレフセン・シュール	1969/3/27	190	81	97	221
6	ハンセン・クリスティアン	1972/10/24	185	83	40	46
7	リーセ・マリウス	1974/4/22	180	72	6	13
8	ハーヴァング・オイスタイン	1964/9/3	189	84	187	737
9	イェンセン・ヨンニ	1972/2/17	190	95	33	45
10	ハーゲン・フローデ	1974/7/23	193	95	49	140
11	ラシュ・スティーグ	1967/7/4	192	90	48	95
13	オウストルプ・ガイル	1972/3/6	183	80	27	65
14	サンド・スティン	1968/4/8	188		27	27
15	ヴィルダーレン・プレーベン	1972/6/6	193	105	49	62

フランス

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ゴダン・クリスチャン	1967/1/26	196	92	136	
12	マルティニ・ブルノー	1970/7/3	197	95	102	
16	フランク・フランシス	1970/3/17	193	83	7	
3	ビルトベルジェ・マルク	1969/5/8	192	88	70	123
4	ルベルディ・ヤニック	1976/4/2	194	97	4	7
5	ジル・ギョーム	1976/7/12	192	96	11	38
7	ケルバデク・ゲリク	1972/1/9	198	105	101	259
8	コルディニィ・ステファヌ	1970/4/17	179	74	51	87
9	カザル・パトリック	1971/4/6	186	91	19	42
10	ジュリア・フィリップ	1969/5/1	175	74	32	39
11	アマルゥ・エリック	1968/10/1	187	88	24	32
13	ラチミー・ベルナール	1971/9/10	194	80	11	15
14	ズゾ・セミール	1976/8/11	200	100	5	3
15	ジュラン・ステファヌ	1971/1/6	180	74	41	104
17	リシャーソン・ジャクソン	1969/6/14	185	82	216	443
18	ストェックリン・ステファン	1969/1/12	185	82	191	684

アイスランド

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	レイニソン・レイニール トール	1972/11/28	190	88	5	0
12	フラフンケルソン・グートムンドゥル	1965/1/22	190	93	261	0
16	ベルクスベインソン・ベルグスベイン	1968/2/25	191	88	118	0
2	シグバトソン・ロベルト	1972/11/13	190	90	38	51
3	ビョールグビンソン・ビョールグビン	1972/6/27	190	87	17	19
5	グリムソン・バルディマール	1965/12/5	180	85	213	669
6	シグルトソン・ダーグル	1973/4/3	195	85	70	93
7	ヨハネッソン・パトレクール	1972/7/7	194	94	127	242
8	ビヤールナソン・グスタフ	1970/3/16	183	80	62	144
9	オラフソン・コンラード	1968/3/11	187	85	144	341
10	ステファンソン・オラフール	1973/7/3	198	88	63	195
11	スベインソン・イエール	1964/1/27	193	93	307	424
13	ドゥラノナ・ロベルト ジュリアン	1965/12/8	202	105	14	45
14	オラフソン・ヤソン	1972/2/12	189	85	12	6
15	ヨナソン・ユリウス	1964/8/22	196	96	243	651
4	シグルドソン・ビヤルキ	1967/11/16	185	82	177	418

モロッコ

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ブジュヌニ・ベナッサ	1967/9/1	187	78	80	
2	カリッド・ジュエル	1974/2/23	170	68	6	
3	アリ・エッサイド	1968/7/24	189	84	33	
4	ベッリート・ムスタファ	1968/1/22	186	87	50	
5	ブハッデイウイ・カリム	1968/11/26	184	81	80	
6	ヌリ・モハメド	1965/11/19	180	84	60	
7	ヌミリ・カマル	1970/12/7	174	67	33	
9	ベヌナ・モハメド	1963/6/1	190	85	25	
10	サアディ・ヤッシル	1970/7/18	182	80	45	
11	ブハッデイウイ・イスマイル	1972/5/13	175	69	65	
16	メリユト・ヌレッデイヌ	1964/6/11	186	80	85	
13	ハディリ・モハメド	1973/1/19	194	83	33	
14	アウアリ・アメッド	1973/6/5	192	86	5	
15	ベッラジャア・モハメド	1971/6/29	184	84	65	
12	ジイッド・ユセフ	1972/12/1	188	80	3	
17	アウアリ・モハメド	1970/12/9	189	86	5	

ポルトガル

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
12	モルガド・パウロ	1972/4/20	186	90	71	1
16	フェルナンデス・ミゲル	1969/10/13	186	75	104	
2	ガランバス・カルロス	1973/2/17	189	90	71	89
3	レゼンデ・カルロス	1971/5/29	192	92	131	753
4	クルス・フィリッペ	1969/6/7	180	83	67	201
6	ガマ・ペドロ	1972/3/26	180	76	60	92
8	クウェリョ・エドゥアルド	1974/5/5	189	86	136	530
9	チコラエフ・ビクトル	1976/10/28	184	83	76	120
10	ファリア・パウロ	1972/2/15	183	72	115	170
11	ピレス・アルマンド	1968/8/28	185	83	126	318
13	アンドリーニョ・ルカルド	1976/11/14	185	81	77	329
14	ボロスキー・ブラディミール	1969/8/18	185	81	8	21
15	ロッシャ・ルイ	1971/9/1	177	78	55	111
17	アルメイダ・ルイ	1973/5/16	181	78	119	249
19	チコラエフ・ビクトル	1964/2/22	190	90	5	27
18	エドウアルド・ヨルゲ	1972/4/16	196	99	26	6

第15回男子世界選手権大会 TEAM MEMBERS

ユーゴスラビア

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ストヤノビッチ・ゴラン	1996/1/29	189	85	112	0
12	ペリッチ・デヤン	1970/9/22	184	93	84	0
16	ジョルジッチ・ゾラン	1966/10/15	186	90	34	0
2	スクルビッチ・ドラガン	1968/9/29	190	98	104	314
3	ヨキッチ・ネボイシャ	1968/7/29	186	88	32	78
4	コバチェビッチ・ヨバン	1970/9/14	194	94	22	43
5	ペルニチッチ・プレドラグ	1967/6/27	194	93	48	84
6	ステファノビッチ・ラトスコ	1971/2/9	191	90	52	89
7	クネジェビッチ・アレクサンダル	1968/12/26	189	84	90	223
8	ヨバノビッチ・ネデリコ	1970/9/16	194	97	88	260
9	ペルニチッチ・ネナド	1971/5/1	203	105	53	185
10	ブトウリヤ・イゴル	1970/3/21	189	88	84	321
11	ストゥパル・ゴラン	1972/7/4	198	100	40	36
13	モミッチ・ドラガン	1963/11/28	186	86	42	63
14	ミロサブリェビッチ・ジキツァ	1972/11/14	178	80	35	73
15	マティチ・ブラダン	1970/4/28	182	80	16	23

中　　国

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
10	ワン・シュエ リ	1974/4/4	188	87	30	
12	ホォ・ジュン	1970/10/18	188	90	118	
16	ワン・ビン	1972/4/25	188	85	31	
2	ツウェイ・レイ	1980/10/25	197	83	15	19
3	マァ・ハイ イオン	1968/7/14	185	90	105	390
4	ジァン・リ	1980/9/20	195	81	8	15
5	ソン・ガァン	1972/2/4	195	95	85	250
6	ジャン・ジン ミン	1967/12/5	180	70	116	580
7	イエン・タオ	1967/2/9	175	70	120	640
9	モ・ジュウ ジェン	1970/11/20	183	84	75	305
11	ウー・ジェン	1974/8/18	182	88	160	260
13	ワン・シン トン	1967/2/18	185	80	120	830
14	ユー・ホオン チュアン	1970/1/11	188	85	80	155
15	グオー・ウェイ ドン	1967/8/8	188	88	114	465
20	ワン・ビン	1976/3/24	186	85	28	57

リトアニア

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ワシケービチュス・アルーナス	1973/8/3	195	95	42	2
2	ヤンケービチュス・ライスイダス	1967/7/10	197	103	17	93
3	ポージュウィリス・ロベルタス	1972/10/28	199	94	42	194
4	ダウゲイーラ・カズイース	1971/2/20	178	78	86	292
6	ピラニシキス・ギンタラス	1971/11/11	200	100	71	301
7	サブキーナス・ギンタラス	1971/2/18	186	81	69	276
8	ゲドビラス・アルギルダス	1972/1/9	192	89	59	154
9	ガウカウスカス・ギンタス	1973/1/22	192	88	40	89
10	マルツインケービチュス・ユリュス	1976/8/25	192	88	40	89
13	ブチース・ゲデイミナス	1967/5/3	188	88	71	326
14	ステルモーカス・アンドリュス	1974/3/3	191	89	41	103
15	ラスイケービチュス・ダリュス	1976/1/10	183	80	26	69
16	サボーニス・アウマンタス	1970/1/6	196	91	78	5
17	クリムチャウスカス・ワイダス	1978/5/11	190	84	8	24
18	チャルネウスカス・キエドリュス	1969/8/26	184	80	32	77
20	パライミ・アルビーダス	1962/1/24	186	88	31	52

ブ　ラ　ジ　ル

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ダ シルバ・アレックス	1974/7/11	180	82	5	
12	デ リマ・セザール	1974/8/14	188	86	22	
16	ドス サントス・マルコス	1976/5/26	183	83	17	
2	ソウザ・ブルーノ	1977/6/27	191	89	21	
3	サントス・ファビオ	1973/1/30	185	82	3	
4	シルバ・カルロス アルベルト	1976/2/25	189	80	21	
5	カルドーゾ・ジルベルト	1968/2/11	191	95	78	
6	アモロシノ・エドウアルド	1969/8/28	182	90	11	
7	フォーリヤス・アレシャンドレ フラビオ	1975/4/3	182	87	9	
8	ピーギ・ルイス グスタボ	1975/6/20	177	77	11	
9	マットス・アジベルト	1972/4/8	193	106	31	
10	コエーリョ・フェルナンド	1970/1/29	191	95	78	
11	カシラッティ・フラビオ	1970/9/16	184	83	12	
13	カリル・ジュリオ	1976/8/1	175	80	19	
14	マジエロ・イバン	1969/6/1	182	78	39	
15	ドス ヘイス・エドアルド	1970/3/7	190	72	37	

第15回男子世界選手権大会 TEAM MEMBERS

日本

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	橋本行弘	1965/9/17	185	91	162	
16	四方　篤	1972/5/12	190	98	12	
2	高木浩司	1967/9/7	181	81	19	15
3	魚住和彦	1966/10/24	187	92	66	111
4	佐々木教裕	1974/4/8	190	95	2	3
5	冨本栄次	1971/10/18	182	88	45	124
6	角谷裕司	1973/11/5	175	78	2	1
7	中山　剛	1969/7/4	190	93	100	374
8	岩本真典	1970/9/28	200	98	55	111
10	末岡政広	1967/9/1	177	86	75	240
11	永山　強	1971/9/9	178	82	12	15
13	藤井孝志	1969/7/27	188	95	69	110
14	杉山裕一	1972/9/2	190	98	19	8
17	茅場　清	1973/7/8	185	86	15	34
18	山口　修	1972/2/28	190	100	12	5
20	辻　昇一	1973/5/10	183	80	8	5

イタリア

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ニーデビーゼル・ミカエル	1965/2/27	200	85	116	
16	ドベーレ・マッシモ	1966/3/15	186	93	182	
3	シュミッド リッチ・マルセロ	1966/1/29	188	84	4	12
4	ルオッツイ・ダビデ	1975/8/25	195	100	25	3
5	カビッキオーロ・セルジョ	1964/6/6	190	95	8	3
6	プラントネール・ユルゲン	1970/8/12	179	77	109	212
7	コビリカ・ザイム	1965/5/25	190	90	2	6
8	グエッラッツィ・ミケーレ	1971/10/10	193	90	68	163
9	フジーナ・アレッサンドロ	1971/4/5	181	82	114	637
10	マッソッティ・セッティミオ	1964/6/30	188	93	264	1144
11	フォンティ・マルチェッロ	1968/1/17	183	91	163	503
13	ブロンゾ・コッラード	1970/3/10	180	88	93	115
14	タラフィーノ・アレッサンドロ	1971/12/6	193	88	67	230
15	ボナッツィ・ステーファノ	1966/8/24	178	86	72	50
18	ボスニアック・リューボ	1966/6/15	190	91	52	80
19	タバネッリ・マウリツィオ	1967/2/4	190	85	173	45

韓国

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	イ・スン ギル	1973/5/6	187	83		
12	イ・ソク ヒュン	1971/1/13	195	97		
16	ハン・キョン テ	1975/4/11	191	87		
2	チョン・カン ウク	1970/5/1	181	71		
3	パク・ソン リプ	1973/9/18	190	85		
4	イム・ソン シク	1975/3/20	195	73		
5	チェ・ヒョン ホ	1976/4/16	192	79		
7	パク・チョンジン	1976/3/18	186	84		
8	キム・ヨン ジン	1973/4/19	183	84		
10	チョ・チ ヒョ	1970/12/6	190	90		
11	チョン・ジュ ソン	1969/4/10	178	76		
13	ユン・キョーシン	1973/7/7	203	95		
14	ムン・ビョン ウク	1970/6/18	178	75		
15	チャン・ジュン ソン	1974/8/24	186	78		
17	ベク・ウォン チョル	1977/1/10	180	80		
19	チョ・ボム ヨン	1971/6/16	186	80		

スペイン

番号	名前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	フオルト マウリ・ジョウマ	1966/7/25	182	83	143	
12	ヌニェス カルテーロ・ジョルディ	1968/9/19	192	89	38	
16	バルフェト ボフィル・ダビッド	1970/6/4	197	94	52	
2	マシップ ボラス・エンリック	1969/9/1	192	94	135	398
3	エスケル ビズバル・サルバドール	1969/1/8	187	91	64	135
4	ギホサ カスティーリョ・ラファエル	1969/1/31	182	75	30	104
5	オルテガ ペレス・アントニオ	1971/7/14	184	86	17	41
6	ゴンサレス グティイレス・ラウル	1970/1/8	185	85	35	41
7	ウルダンガリン リエバルト・イグナシオ	1968/1/15	197	102	118	250
8	オラヤ イラエタ・ヘスス	1971/7/15	196	95	67	110
9	ガラルダ ラルンベ・マテオ	1969/12/1	196	93	114	287
10	ドイシェバエフ ムカンベドヴ・タラント	1968/6/2	183	88	45	189
11	ロサノ ハルケ・デメトリオ	1975/9/26	196	95	31	42
13	ウルティアレス マルケス・アルベルト	1968/11/17	179	80	94	320
14	ペレス マルケス・ホアン	1974/1/3	202	100	27	59
15	フェルナンデズ オセハ・ヘスス	1974/2/25	192	92	30	16

第15回男子世界選手権大会 TEAM MEMBERS

ロ シ ア

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	ラブローフ・アンドレイ	1962/3/26	197	91	168	1
12	スコシャン・パベル	1962/1/14	200	101	106	0
2	ラブローフ・イゴーリ	1973/6/4	182	80	32	55
4	コクチャローフ・エドゥアード	1975/11/4	185	81	15	46
5	クレショーフ・オレーグ	1974/4/15	184	80	60	250
6	クリボシュルィコフ・デニス	1971/5/10	180	78	11	10
7	ボローニン・レーフ	1971/6/8	185	83	52	138
8	ゴーピン・バレーリィ	1964/5/8	187	87	167	647
9	クジノフ・バジリィ	1969/2/17	195	95	132	500
11	トロゴバノフ・ドミトリィ	1972/1/5	200	86	108	298
13	アタビン・ビャチェスラブ	1967/2/4	200	105	112	369
14	グレーブニョーフ・オレーグ	1968/2/4	206	116	111	123
18	ゴルピーシン・ビャチェスラブ	1970/1/20	200	100	110	163
19	ポゴレーロフ・セルゲィ	1974/6/2	197	90	68	169
20	クリチェンコ・スタニスラブ	1971/4/19	190	86	75	210

サウジアラビア

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	アル・シュラーファ・ハーシム	1976/4/13	178	73	12	
12	アル・サイード・マナーフ	1976/5/19	187	112	12	
2	アル・ゼライヒ・アブドゥルラフマン	1968/11/11	190	105	33	
3	アル・イブラヒーム・アハマド	1964/5/13	185	90	37	
4	アル・アリー・ムフェード	1972/8/11	184	89	17	
5	アル・ジェダニ・ハッサン	1976/3/25	196	104	11	
6	アル・オベイディ・ヤーセル	1976/8/14	186	85	14	
7	アル・アックワーン・フセイン	1976/11/19	168	73	8	
8	アル・グルーナーウィ・バシール	1976/8/12	173	80	13	
9	アル・ドウサリー・アブドウッラー	1976/5/22	190	100	15	
10	アル・アラウィアート・アブドウルアズィーム	1967/7/12	182	90	35	
11	アル・ハルビ・バンダル	1976/10/11	185	76	11	
13	アル・ヒラール・ハーニー	1977/2/20	176	73	14	
14	アル・ヘッジ・リヤド	1976/3/18	184	75	16	
15	アル・ジャズイリ・アブドラッボ・アルラスール	1977/1/2	190	82	14	
17	アル・ダハーム・バデル	1977/2/1	191	89	17	

キ ュ ー バ

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	シャンベルト モンタルボ・アルベルト	1974/6/19	186	92	43	
16	リベリエルナンデス・ブラディミル	1971/1/22	194	110	181	
3	フィス ロソー・フリオ	1974/10/28	191	90	42	140
4	マルティネス クエスタ・ルイス	1966/8/6	188	91	201	461
5	シルベイラ カルボルイス	1973/6/27	187	84	73	204
6	ウリオス フォンセカ・ロランド	1971/1/27	192	100	201	596
7	アルダサバル ディアス・イボ	1972/5/10	191	88	97	182
8	ハルディ アラヨ・ラウル	1976/1/25	189	87	4	4
9	ヤント サンチェス・ルイス	1974/7/12	195	105	30	72
10	スアレス ニレラ・フレディ	1971/10/20	178	75	83	288
11	マルコス プエルタス・オダエル	1973/3/9	185	86		
13	ロヌロ コニル・フェリックス	1972/2/26	184	76	87	150
14	レイナルド ペレス・カルロス	1971/8/26	197	95	95	250
20	ゴンザレス ロドリゲス・ファン	1974/7/20	184	87	29	65

アルゼンチン

番号	名　前	生年月日	身長	体重	国際試合出場	得点
1	カンソニエロ・ガブリエル	1972/12/20	193	102	25	
2	ブセタ・パブロ	1973/11/27	192	99	23	
3	モリーナ・マルティニアーノ	1972/6/19	192	104	5	
4	グル・エリック	1973/8/28	204	90	10	
5	ビスコビッチ・マルティン	1975/3/5	189	86	40	
6	モルラッチ・ロベルト	1969/10/13	185	84	40	
7	コゴフセク・アンドレス	1974/1/7	189	86	15	
8	プラティ・クリスティアン	1969/9/27	190	95	20	
9	フング・ロドルフォ	1972/8/10	190	98	36	
10	フェルナンデス・グスターボ	1969/7/15	178	79	35	
11	ベリンキー・セバスティアン	1974/2/26	178	83	10	
12	カンソニエロ・クリスティアン	1974/12/30	198	100	10	
13	スミス・アレジャンドロ	1974/10/31	185	80	4	
14	スニトウスキ・パブロ	1972/5/7	192	96	42	
15	ビスコビッチ・ゴンサロ	1976/11/27	188	90	15	
16	ガルシア・アレハンドロ	1969/9/3	184	84	5	

日本ナショナルチーム・スペインナショナルチーム トレーニングマッチ

日本チームは、5月11日・12日、世界大会メインスタジアムの熊本パークドームで直前のトレーニングマッチを実施した。

■5月11日

スペイン 26（12—12／14—12）24 日本

前半立ち上がり、相手大型ポストに苦しめられ10分過ぎまで2—5とリードされていたがDFで相手にディスタンスシュートを打たせる事に成功し始めてからGK橋本が良く踏ん張り前半を12—12と同点で折り返す。後半に入り中盤までに一時5点差をつけられながらも、残り5分には24—25と1点差にまで追いついたが、その後スペインに得点を許し、2点差の24—26で敗れた。

■5月12日

スペイン 29（14—10／15—5）15 日本

前半は、相手センターの好配球から大型ポストにボールを集められ確率の高い所からのシュートを多用され苦しんだものの10—14の4点差で折り返す。後半は20分過ぎまで杉山のポストの得点のみで、その間にミスからの逆速攻などなど7連続失点を含む猛攻にあい15—29の大差での敗戦となった。

しかし、あくまで世界選手権の第1戦対アイスランド戦の準備という目的で行ったもので攻防両面でチーム目標とするところの、攻撃成功率50％DF成功率60％に近い結果を残す事ができた。

ロシアナショナルチーム 国際交流試合の結果

ロシアナショナルチームは世界選手権大会(熊本)に参加のため、5月12日に来日、広島で日本リーグ加盟チームと国際交流試合を実施した。

■第1戦　5月13日〔火〕
呉・日新製鋼体育館

ロシア 40（22—8／18—12）20 日新製鋼

■第2戦　5月14日〔水〕
湧永満之記念体育館

ロシア 37（20—13／17—11）24 湧永製薬

フレンドシップ'97協賛者名簿

フレンドシップ'97ご協賛ありがとうございます。
5月30日現在で1069名のご協賛をいただいております。以下にお名前を掲載し、感謝を表します。
協賛いただいた方には以下の記念品が増呈されます。

1. '97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本記念特製テレホンカード
2. 世界選手権記念特集特別号

【北海道】
倉本 紘一
迫 茂
岡田 豊夫
村瀬 清史
加藤 勉
松崎 雅芳
田中 勇
柏崎 久子
清水 勝
駒林 昭三
三栖 雅之
小越 康雄
松 喜美夫
大橋 幹正
清水 幸彦
小林 礼
加藤 慶仁
萩原 英俊
高原 健
棚橋 伸男
佐藤 博明
宮崎 光市
高橋 義男
安藤憲 四郎
中村 崇
中島 元

【青森県】
太田 尚充
鳴海 満
川島 卯太郎
福士 義昭
渡辺 信行
滝口 太
諏訪 正徳
藤本 武
坪谷 雅幸
齋藤 浩
小川 清吉
久保 吉也
関本 和之
対馬 保子
平尾 和浩
長谷川 稲子
坂本 吉次
青森高校ハンドボール部

【岩手県】
佐藤 睦朗
太田 利彦
大澤 由和
谷藤 勝美
池口 杜孝
箱崎 敬吉
大志田 諭
佐藤 正一
北村 尚英
澤藤 稔
多田 和生

【宮城県】
千田 文彦
加藤 正彰
東北福祉大ハンドボール部
大河原 浩気
加藤 宏之
山路 康男
斎藤 節郎
菅間 進
相沢 義浩
堀籠 二郎
高橋 長偉
池田 加一
三浦 昇
佐藤 久

【秋田県】
阿部 建
小山田 富彦
石塚 俊子
今野 広一
藤原 久美子
澤瀬 仁美
梁田 忠男
沢井 春美
三浦 高子
佐藤 靖
鎌田 定明
豊島 慶男
長澤 養一
半田 忠
畠山 弘子
松橋 千秋
石橋 正勝
田口 純一
相川 綾子
野村 光正
加藤 時子
藤原 周悦
佐藤 進
菊地 良一
高山 重雄
三浦 冨美子
佐原 久
鈴木 崇
鈴木 環
伊藤 治彦
一関 敏彦
斎藤 将一郎

【山形県】
安孫子 功
五島 訓二
高橋 善浩
本堂 良寿
長南 他一
仙道 勝治
横尾 英嗣
星川 威雄
押切 朝吉
奥山 重雄
仁藤 清一
八代 一
山形南高校ハンド愛好会

【福島県】
中島 寿美
関川 正道
今野 雅益
佐藤 雄次
宗形 守敏
塩田 幸男
遠藤 通雄
森 功
柳沼 正義
佐藤 嘉重
鈴木 信夫
伊藤 友彦
岡部 新一郎
熊田 栄一
松本 清一
三浦 正和
田中 誠
最上 大
伊東 豊
菅野 正行
三瓶 昌久
村上 俊一
菱沼 一良
伏見 士郎
渡部 次郎
草野 立雄
加藤 岳郎
斎藤 仁宏
田口 侑義
上野 覚
笠原 高明
平川 憲甫
小針 三夫
佐川 昌嗣
根本 真
前川 秀道
斎藤 昌己
安部 信夫
穂積 清康
小沼 慶二
石井 義国
橋本 春二
遠藤 均
後藤 義信
伊藤 忠俊
小林 和子

【茨城県】
筑波大OG会
筑波大OB会
田中 汀子
小板橋 潤
北村 善夫
柏崎 茂
富田 拓
矢澤 達司
岡本 研二
大西 武三
麻生フェニックス
住尾 勉
大川 潤
吉地 正丈
砂長 誠
山内 孝雄
立原 定宗
大村 久
阿部 富夫
橋本 政孝
高野 実
大月 政明
笠間クラブ
塚田 芳明
会田 真一
鬼怒中学校ハンドボール部
玉造工業高ハンドボール部
水上 一
関根 邦夫
雨海 左武郎
細谷 安司
鈴木 均
住谷 稔
幡谷 祐一
吉地 かおり

【栃木県】
益子 房之助
大出 治男
岸 裕行
山下 勝司
高崎 弘
田澤 孝一
上野 喜美
小西 正寿
山岸 光子
中山 富夫
高橋 隆夫
細井 操
山下 勝俊
川田 雄三
伊藤 晋
武井 一浩
川又 克巳
住森 憲治
河先 修
菅間 一
阿部 徳之助
石田 正彦
日下部 高明
尾苗 裕美
新開 聖
駒場 和夫
大久保 清一

【群馬県】
伊崎 克巳
内藤 静子
斎藤 光男
越石 信次
永井 正
宇佐美 幸彦
小林 進
宮下 鎌治
高橋 潔
飯田 季信

【埼玉県】
井田 一博
井上 素行
藤間 純子
木野 実
岡村 昭二
佐藤 美由紀
入江 直子
萩原 初江
竹野 奉昭
塚田 咲枝
佐藤 道子
岡村 寿子
三浦 登志雄
佐々木 則子
高畠 和江
渡邉 直美
持田 マサ子
渡辺 叡子
松本 隆栄
杉本 友美子
土屋 勇太郎
高橋 衛
高橋 信子
玉田 和代
中村 恭子
中川 幸子
中野 ジュンコ
勝沼 由季
菅野 富男
山本 興道
西山 逸成
岩本 明
勝倉 寅男
川畑 和司
篠江 裕
五十嵐 幸治
広瀬 喜代香
金 賢玉
金丸 淳子
船津 芽生子
川村 純子
後藤 恵理
佐々木 愛
永尾 倫子
鵜狩 恵美子
鎌田 香名子
佐久川 ひとみ
千葉 真紀
穂積 知紘
結城 香織
斎藤 幸司
小林 一夫
井上 友子
中村 甲治
福本 弘
中上 達生

【千葉県】
木内 兵太郎
木内 久美子
山上 修二郎
田村 幸雄
山本 伸二
内田 明克
氷海 正行
稲生 茂
松本 滋
仲田 稔
辻 祥雅
香取 秀紀
本間 誠章
上中 範子
河村 レイ子
清水 智功
五味 崇恵
河村 英明
聖徳大付中高ハンドボール部
植村 彰
柳田 睦子
三井 信
東根 明人
猪股 俊二
池田 安亘
山田 いく子
永野 幹雄
日根野 寛
吉田 茂
泉水 孝浩

【東京都】
佐藤 佳子
江成 元伸
兼子 真
高橋 健夫
田島 悦子
高橋 英次
後藤 登
市原 則之

今井 敏之
岩本 任弘
大塚 文雄
菅原 恵子
栗岩 淳一
匿名
佐々木 博子
今井 昭子
福地 賢介
脇若 正二
荒木 茂徳
藤原 侑
飯塚 政子
中澤 重夫
佐藤 明美
滝口 三郎
小松 正武
中嶋 治美
羽田 裕一
門井 隆治
矢島 雅明
国立高校ハンドボール部
本多 正樹
佼成学園女子高ハンド部
齋藤 博
落合 由津子
佐野 和夫
駒大ハンドボールOG会
高橋 由紀子
村野 静子
堀江 成典
碓井 裕史
永田 淳子
安藤 純光
石河 廣安
丹野 純一
近藤 金博

勝 繁夫
兼田 佳博
今井 善洋
加藤 祐策
岩佐 又次
水越 元子
川上 整司
大野 金一
渡辺 慶寿
寺田 由紀子
太田 衆一郎
花野 誠一
細木 建夫
綿貫 敏雄
綿貫 紀子
川口 定男
東京経済大ハンドボール部
下村 亘
張 生
塩川 安賢
小泉 功
豊田 直平
東京工専ハンドボール部OB会
世田工送球会
関 和生
石井 義久
緑川 正博
原 信雄
エモックエンタープライズ
小峰 一晃
橋本 永治
東京学芸大学男子ハンドボール部
川崎 保江
横田 和夫
中村キングクラブ
野村 進

新家谷 隆男
河内 鋭雄
神津 信一
上原 信子
佐藤 和孝
匿名
専大付高校ハンドボール部
三沢 澄
福井 久子
昭和薬科大学ハンドボール部
青木 薫
【神奈川県】
真田 元
村松 英美
近久 紀人
松井 正敏
大城 和彦
神尾 陽子
川村 久子
山田 啓太
西本 千賀子
玉井 晴雄
澁谷 正道
新井 千鶴子
齋藤 達也
佐分 正典
村松 誠
植村 繁
若崎 重武
南木 雅弘
大東 秀明
上林 正明
斎藤 慎太郎
近藤 正栄
三浦 公
財部 重彦
若月 博
黒澤 邦夫

堀越 進
中村 吉宏
森川 利昭
宮原藤 支男
海保 和夫
栗城 紘一郎
池田 茂郎
山田 哲雄
渡辺 靖弘
川辺 孝夫
小見 幸男
【山梨県】
千野 恒夫
清水 正
植野 保
清水 剛
齋藤 実
栗原 富貴子
三枝 慶彦
窪田 善文
平岡 秀雄
興石 順一
手塚 寿郎
市瀬 公敬
窪田 正典
菊島 哲也
天川 正次
小池 道春
塩山ハンドスポーツ少年団
雨宮 義利
【新潟県】
小松原 金二
大矢 三郎
ホテル新潟
高橋 保
【長野県】
青木 崇
加藤 雅之
中澤 文子

中澤 正巳
手塚 伸
服部 博幸
春原 紘一
中村 栄孝
望月 豊
岩下 道範
名取守 二郎
井出 正一
油井孝 一郎
竹内 佳明
桜井 重治
【富山県】
沢井 淳一
嶋田 重春
中川 周三
山口 吉弘
吉水 慎一
嶋田新 太郎
徳前 哲人
金原 至
大谷 正則
村岸 治幸
中山 圭三
金 明恵
木下 晴雄
飯山 進
宮崎 恒
小川郷 太郎
【石川県】
二口 昭夫
米谷 恒洋
荷川取 義浩
川端 孝一
牧 浩二
古橋 幹夫
酒谷 信彦
曽谷外 茂雄
八日市屋 進
安部羅 大造

浜野 大助
北岡 克彦
井川 邦彦
高体連ハンドボール部
北川 昭栄
【福井県】
越田 義昭
志々場 修二
藤井 善彦
竹野 誠司
中村 勝司
左司 勝三
竹野 秀輝
㈱フクセン
武生東高ハンドボール部
福井商校ハンドボール部
東 哲郎
今村 豊
稲崎 博行
朝賀 博美
【静岡県】
鈴木 義紀
片瀬 喜代次
田中 弘子
清水 保雄
稲森 照男
斎藤 多
坪内 伸浩
栗山 聡
寺田 嘉一
細沢 覚
佐塚 浩徳
石川 直樹
高橋 久仁和
仲山 靭恵
内藤 岳
【愛知県】

中島 正貴
宇津野 年一
早川 弘三
村木 啓作
角 紘昭
梅村 忠雄
早川 真澄
横地 宇吉
稲石 三二
新井 友彦
鳥居 晴久
浅野 克彦
栗脇 凝
矢野 哲二
小野 正雄
彌津 行雄
野田 清
柳川 清
藤中 憲二
花輪 博
柳川 実
中本 満明
蒲生 晴明
清崎 隆
林 浩司
佐藤 光夫
土川 一樹
中本千 和紀
名取 和成
森山 稔
富石 淳
田中 保彦
高村 誠一
内藤 浩樹
林 康一
林 珍錫
末岡 政広
佐藤壮 一郎
秋吉 哲男
植木 寿憲

濱野 健一
阿萬 隆文
藤井 孝志
酒勾 康二
米倉 巧
荻本 将勝
清水 博之
冨本 栄次
松本 光則
柴田 大介
日原 一幸
中谷 友和
南川 裕孝
金子 尚司
笹西 直大
和田 宏治
稲生 嘉宏
村松 清
溝口 博一
市川 修
小林 きよみ
小林 ますみ
吉金 勇
松原 英司
河合 龍二
神尾 心一
山田 透
平松 学
山田 幸男
河合 千丈
太田 耕治
伊藤 和夫
正色スポーツ少年団
西川 勤也
山崎 正利
河合 弘
宇栄原 幸政
稲住 晋二
日比登 史男

鈴木 淳藏
渡辺 貞彦
川島 克之
杉村 正一
久本 直明
岡崎 直哉
難波 興治
【三重県】
笹川ハンドボール少年団
栗本 士郎
田村 金子
田口 隆
鈴木 義男
石井 勝
山村 敏之
藤井 孝一
橋本 行弘
木下 憲司
高木 俊明
弥吉 圭一
丹羽 昭文
後藤 信幸
茅場 清
長谷川 貴洋
谷村 貴郎
加藤 圭介
笹浪 重俊
広政 宜孝
平松 茂雄
松原 晋哉
中里 賢二
四方 篤
日原 正和
新實 俊夫
平賀 達也
西村 仁志
夏目 真治
松岡 富夫
ホンダクラブ

【岐阜県】
斎藤 和義
福田 直行
森川 俊章
杉本 真一
大洞 五十七
上野 毅
加藤 隆広
今井田 康雄
上妻 忠夫
峰岸 正之
豊島 康彰
古宮山 喜邦
吉田 元
鈴木 義久
中島 康
【滋賀県】
北川 裕之
尾本 和男
秋永 昭治
佃 幸太郎
清水 哲哉
【京都府】
審 愛玲
吉田 博二
杉本 洋一
小西 博喜
藤本 昇
西田 充
橋本 善次
山中 昭治郎
堀田 靖人
西村 成晴
岸本 光夫
林 ひとみ
【大阪府】
東 嘉伸
服部 秀人
四方 洋子
森本 正毅

望月伸三郎
緒方嗣雄
小森園多恵子
山中善之祐
幸田良一
塩川正十郎
神田清
井上真也
戸田栄一
村田弘
花畑平男
松尾信一郎
北岡大覚
家永昌樹
久保義雄
木田武夫
岩佐邦彦
繁田順子
渡邊巌
吉田正明
佐谷光一
浅井隆志
吉田敏明
吉沢力男
近藤善重
福島富造
寺内哲之
村上善英
浅井安子
宍倉保雄
光島磯雄
村尾亮
近畿高体連ハンドボール部
山崎武
土井秀和
榎原嘉之
中出盛雄
山田稔
高橋精一

志賀良弘
大林欣子
辻本孝仁
【兵庫県】
西澤倫雄
殿水幸雄
長靖磨
大原康昇
小島正男
花房保
岡田茂夫
丸茂康子
北山隆
藤原豊
村上潔
浜田浩嗣
泉滋
山中正俊
樫塚正一
早川清孝
石井信行
馬場保夫
島崎政治
狩野幸介
幸田末之
柿木国夫
坂本敏雄
井上亮一
荻田勝紀
植村彦一郎
【奈良県】
中川敏文
西村佳千
中井公人
佐々木英明
中畑明郎
谷村竜太郎
有永修二
【和歌山県】
笠中喜次

尾高義彦
能木進
山田進
串野寛
田中秀和
熊井利夫
上野昌之
【鳥取県】
松原紀機
石黒豊
里和則
高木敏行
浜田彰
小澤敏正
松本吉司
明穂光也
早田博之
稲葉昌治
田中宏明
望月裕之
森脇要
木田慎介
森本泰夫
足立晴夫
吉田達明
鳥取県高体連
【島根県】
宇津徹男
斎藤隆
船江昭光
中西磊
都志見朋子
県ハンドボール協会
【岡山県】
藤井俊朗
森安昭雄
浅香又彦
小嵐昭子
中山学

片山透
大熨嘉彦
黒住宗晴
山下知巳
倉敷工業高校
永井忠和
【広島県】
峠野光伸
浜本忠志
坪根敏宏
加川厚
杉山裕一
小沢勝利
山口修
松谷丈裕
飯田一郎
高田浩志
中山剛
田中雅彦
多田恵久
松本暢
B.R.BRAMANS
堀田敬章
河原隆雅
藤永清
津川昭
戸田政弘
藤本康生
井藤英忠
楢原隆雄
奥田新治
玉村健次
長沢純平
酒巻清治
西元義昭
福岡篤紀
山下泉
不破亨
草井由博
スタンド・レモン

槇岡辰男
奥川和永
東昌弘
山西泰明
高西宏昌
平田幸男
片岡賢司
塩見博
小林能治
日野栄二
穴井秀徳
野中宏洋
冨松宏一郎
堀田幸夫
鮎沢潤
貝田良寛
三浦孝
木村信弥
角谷裕司
林原洋仁
泉喜久男
宇田川竜也
水谷和嘉
伊藤豊
西山清
源内利之
坂口俊幸
楠原誠吾
湯中勝
林昌英
原康司
花本大輔
岩西正憲
中本成基
【山口県】
白井謙次
飯田弘昌
岡井幸由
青木操
山根安彦

明石雄次
増田雅夫
宮崎太郎
古富博
守田政生
藤井拓生
明石英利
藤井真
山上雅弘
溝部弥三郎
常田隆
中村時雄
柳井文治
田原正美
大片恵美子
原井進
角直樹
加藤晃
【香川県】
楠原敏明
大谷和彦
小早川道孝
藤沢秋義
佐藤昌弘
松原忠
香川県ハンドボール協会
横山和司
上濱清司
香川選抜チーム
末澤光夫
河合哲
片岡幸夫
亀井好弘
大林一友
【徳島県】
半田忠史
川島文代
三谷昭丈
前田誠之助

青木隆章
長尾輝夫
東藤敬
佐藤正美
浜田浩之
高体連
中体連
小体連
【愛媛県】
越智武
河本武夫
野中聰
伊藤演哉
高橋満年
毛利尊志
長野真太郎
大亀裕
正岡勝英
川田哲也
竹村久晴
松原久士
松原誠起
佐藤実
山崎幸夫
田中達男
堺賢治
今井茂宏
森田政志
越智紀子
矢野龍一
武智誠治
真木崇
松浦美香
石川達也
上野裕司
守口公三
【高知県】
岡本憲和
岡村博三
清水修

熊沢徹郎
川崎英雄
片岡修一
高橋良忠
青木啓司
武田末男
沢田哲雄
有光正憲
井上敏
高橋卓也
葛目憲昭
佐賀厚幸
谷脇敦
成岡真
南クラブ
高知南高男子ハンドボール部
高知南高女子ハンドボール部
岡豊高男子ハンドボール部
岡豊高女子ハンドボール部
小松和久
宮崎光一
高野卓悦
中川利彦
高知東高ハンドボール部
【福岡県】
田中守
松本浩志
古賀信男
稲積茂紀
篠崎省吾
森山正治
中西敬一
中川英二
大場正志
新荘悌男

和佐野健吾
森川嘉人
日野祐一郎
佐伯紘一
【佐賀県】
土井坦
佐賀農業高ハンドボール部
高木健恵
吉田和治
貞島早苗
甲斐忠義
久保田秀光
松尾嘉信
中園嘉彦
水田正文
小柳正信
龍登園
【長崎県】
石井道義
原田国男
池田寅勝
今村豊嗣
海自佐世保地方隊
諫早乳業株式会社
新井善文
和田旬功
林信義
河田誠
山川周二
県ハンドボール協会
市ハンドボール協会
浅田五郎
末次功
青井正弘
【熊本県】
熊本クラブ
村上建二

高田憲之
矢住嘉孝
横山紘二郎
大島隆志
井出和洋
井薫
西窪勝広
【大分県】
疋田忠
横瀬西ハンドボールクラブ
生野彰雄
佐藤喜一
川西良廣
福田稔
【宮崎県】
坂元平
宮元章次
佐藤一一
堀之内真澄
末廣芳文
【鹿児島県】
井料たか子
本田娟一
蒲山尚志
谷川洋造
岡山明弘
近藤實
西花文雄
山崎千加子
奥山誠恒
【沖縄県】
荷川取孝志
新垣健
嘉陽宗陰
東恩納盛英
佐久本浮
黒島宣昭

協会だより

ブロック理事長会議

日時　平成9年4月27日(日)
12時00～16時00分

場所　東京体育館
第3研修室

出席者　中澤重夫、理事4名、
参事5名、他4名

1 フレンドシップ'97について

フレンドシップ'97の現況について、1000名程度の協賛があることが述べられ、1500名に向けて積み上げたいとの目標が示され、協力依頼。

2 世界選手権関連について

世界選手権について各県100名以上の観戦依頼。入場券、ホテル等宿舎も十分にあることが述べられた。

TV放映について、衛星放送で毎日放映されることの案内を依頼。

世界選手権ガイドブックの購入依頼がなされた。フェスティバル大会について、資料に基づき説明。

コーチレフェリーシンポジウムについて、資料に基づき説明。要項の発送について日本リーグレフェリー、公認指導者には送付済みであることが述べられた。

世界選手権観戦予定状況について報告が求められた。

熊本県協会より、1時から3時開始の試合は、熊本で観戦動員がなされているので、5時からの試合が比較的空いているとの予測が述べられた。また、熊本県協会として、一人でも多くの観戦をしていただきたいとの依頼がなされた。

大会運営体制について説明がなされた。

3 ワールドドリームゲームについて

ワールドドリームゲームについて説明がなされ、観客動員を図るため、広報伝達の依頼がなされた。

4 ジャパンオープントーナメントについて

ジャパンオープントーナメント要項について説明がなされ、5月26日に正式文書をブロック長宛発送の予定が報告された。

参加申し込み時のユニフォームについて、1番から16番までとすることとなった。

ブロック予選予定について、報告があった。

5 全国クラブ大会について

全国クラブ大会について、経過説明。

全国クラブ大会は継続するとの確認がなされ、西日本大会の本年度開催については熊本県井手理事長が熊本県理事会に提案することとなった。来年度については四国が候補となったが、持ち回り制を含めさらに検討。

東日本大会について要項案が提示されたが、ブロック別参加数について、代表との関わりがあり検討が必要とのことで昨年通りとなった。

西日本大会についてブロック別参加数について確認がなされた。

6 その他

インターネットに関連して、各都道府県においても人材を含め準備、検討の依頼がなされた。

選手証の活用に関して、意見聴取がなされた。

列島縦断

みんなが主役！〃新世紀・みやぎ国体〃に寄せて

宮城県ハンドボール協会理事長
千田　文彦

平成13年第56回国民体育大会が「いいね！その汗・その笑顔」をスローガンに、〃みちのく〃宮城県で開催することが内定しました。

県民一人ひとりが自発的に多様な国体への参加を進めることにより、21世紀の幕開けにふさわしいスポーツの祭典を創造し、共に感動し、喜びをわかち合う中で『新世紀・みやぎ国体』を成功に導くとともに、すべての人々が健康で心豊かに暮らせる、活力に満ち、夢あふれる〃みやぎ〃づくりを展開するため、みんなが主役！〃新世紀・みやぎ国体〃を県民運動の基本方針として「手作りみやぎ国体」に向け協会一丸となり準備をしておるところであります。

平成2年インターハイを開催し、多くの関係者のご努力、ご協力により終了することができ、地元宮城の聖和学園高校（女子）が全国の頂点を極めてから、早いもので、7年が過ぎました。

私自身、平成5年度に25年間宮城のハンドボール協会理事長として舵とりをしていただいた森恭一氏よりバトンタッチし、21世紀の幕開けとなる「手作り国体」の開催に向け、誠心邁進しておる所であります。

みやぎ国体は、全県すべての71市町村で、正式・公開競技デモンストレーションとしてのスポーツ行事を含め何等かの競技を行うこととし、国体始まって以来初めての試みである、県民総参加による心温まる国体を目指しております。

ハンドボール競技は、宮城県中央部の黒川郡富谷町・大和町・大郷町・大衡村の3町1村の4カ所の体育館とアウト2コートで開催を予定しており、隣接町村とはいえ、今までにない広範囲に及ぶため、大会運営に細心の注意を払い、みやぎ国体に参加される役員・選手を快くお迎えしたいと思います。しかし、この開催地域は、ハンドボール競技の未普及地でもあり、行政機関のお力をお借りして、ハンドボール教室や中・高校のクラブ活動に力を入れ、地元の選手が一人でも多く大会に出場し、大会を盛り上げることができるように努力をしてきました。またハンドボールのおもしろさを、地域の皆様に知っていただくため地域対抗による大会も、計画しておるところであります。ただ、宿泊施設が不足ぎみのため、民泊も計画しておる関係で、快く選手をお迎えできるよう関係機関と連絡を密にして万全を計る所存であります。

強化につきましては、近年東北ブロックのレベルが年々上昇し、特に少年女子は今春の全国高校選抜の準優勝など全国でも対等に戦えるチームが多くあり、これを追い越す事を目標に、今年度より強化指定制度を取り入れ、遠征・合宿を行い、高い目標を目指し、一丸となって強化に励む体制を取っております。

成年についても、景気回復の遅れ、あるいは少子化による教員減少などマイナス要因で、なかなか思い通りにはいかないのが現状ではありますが、〃宮城のための合言葉で、地元出身選手はもちろんより良い選手強化策を計りたいと考えております。

今後、国体に向け大会がめじろ押しに計画されており、今年度は東北クラブ、東北中学校大会、10年度は全国中学校大会、11年度は東北総体、12年度は国体リハーサル大会であるジャパンオープン・トーナメントと大会運営について一つ一つノウハウを蓄積し、13年のみやぎ国体に向け、日本ハンドボール協会のご指導のもと、町村民そして県内ハンドボール関係みんなの力で、意義のある国民体育大会にしたいものであります。

コーチ・レフェリー・シンポジウム

審判委員会

熊本で、ヨーロッパ地域以外では初めての男子世界選手権大会が開催されている中、熊本県立総合体育館を会場に表記シンポジウムが開催された。世界のプレーを間近で見、IHF役員の話を直に聞くことができたことは有意義であった。以下に、その概要を記す。

◇　◇　◇

■大塚JHA審判委員長（20日）

現在IHFでは次のようなポイントで審判指導を行っているので試合を見る時の参考にしてほしい。

①プレーをさせ、プレイヤーの最大限の力を出させる。②プレイヤーを脅かさない。③ミスはあるが、大きなミスをしない。④小さなファールにこだわるな。⑤ゲーム中の人間関係を大切に。⑥役員を興奮させない。⑦開始前は心の交流をはかり、良いコンディションを作る。⑧チームの特色を常に頭に入れる。⑨レフェリーもスポーツマンである。⑩ルールブックを常に持ち歩く。⑪レフェリーの役割分担をはっきり。⑫笛の音色の工夫。⑬決してボールから目を離さない。

■スタインバッハーIHF・PRC現委員長（25日）

昨年8月に就任したばかりの委員長により、「IHFの指導」と「ニュールールについて」の講演があった。IHFレフェリーに必要なのは次の9点である。①ルールの知識②身体的特性③語学力（独語、英語、仏語）④リーダーシップ⑤品格⑥人間性に富む⑦確固たる判定⑧失格・追放をおそれない勇気⑨審判団の仲間意識がある、ということである。ゲーム中のレフェリーの仕事は多いが、その活動は大きく分けて「インフォメーションすること」と「罰すること」に分けられる。特に、警告は罰則ではなく、罰則とは退場からを指す。ニュールールに関しては条文を挙げ、変更点と実施方法について話があった。

■エリアスーIHF・PRC前委員長（28日）

エリアス氏からは、「ニュールール作成の意図と過程」について講演があった。エリアス氏は罰則の段階的適用の初期からかかわり、今回の改正はその総決算とも言える。策定の意図は、次の5つである。①よりフェアーに、②より速く、③観衆にも、よりわかりやすく、④より面白くということである。さらには、⑤成人から子どもに至るまで同じルールで行なわれるものを目指したという事である。文字では伝えられないことを、作成責任者の口から直に聞くことができたことは、大変有意義であった。

■加藤JHA審査指導委員長（21、24、27日）

前日に行われたゲームのビデオから、特徴的な判定を選び、解説をおこなった。基本的には、大きく異なる判定はないが、世界選手権のレフェリングは、世界の鍛え抜かれた選手のぶつかり合いを判定するものであるので、日本の現状からは、多少違和感を覚えるかもしれないし、国内にそのまま当てはまるとは言えない。特徴的なことは、コートレフェリーが中央よりゴールレフェリー側に寄らず、前後に位置を取り判定していることとである。その分、ゴールレフェリーがボールに絡む判定をしているようである。また、警告が前半15分までに6枚出し切られてしまうことがあった。そのため退場が多く見られた。負傷者に対しては十分な時間をとり、コートが濡れた場合の処置にも時間をかけていた。さらには、オフィシャルとの連携も密であることも大切である。

◇　◇　◇

シンポジウム開催に当たり、ご協力いただいた指導委員会の皆様、地元熊本役員の皆様、通訳の皆様、遠路会場に足を運ばれた皆様に感謝します。非常に充実した6日間であり、特にスタインバッハ氏やエリアス氏の話は内容豊富であるので、改めて、補足、報告をしたい。

コーチ・レフェリー・シンポジウムから「新ルールについて」

E. Erias

ルールの変更の際に考慮すること

・コーチとレフェリーと双方の意見によって決定すること
・試合をスピーディーにすること
・観客にわかりやすくすること
・ハンドボールの根本的なものを変えないこと
・子どもから大人までに対応するルールであること

■ルールブック

2-1、3-2

ルールに加えるべき項目ではないと思うがIHFルールに従わなければならないので、JHAでも検討してほしい。

4-5　不正交代

現：相手コートにボールがあるときに、オフィシャルからFPが7人いると知らされ、2分退場になり、センターラインからフリースローによって再開される。

新：相手コートにボールが入っているのにまたセンターラインから始めるとボールの位置が戻ることになるので近くのサイドラインから（?）始める。

7-8

「膝から下にボールが当たっても

不利にならなければ差し支えない」
→削除
どんな状況でも膝から下に当たったら笛を鳴らさなければならない。

7－9

床にめがけて体を投げかけてボールを獲得に行ってはならない。床から1㎝でも空中にあるボールであれば投げかけても良い。（しかし危険なことへエスカレートしてしまうので、他の文章で補っている）

8　相手に対する動作

基本的考え方は変わらない。Fがもっと注意して動作するように書かれている。

8－5

相手の健康を害するようなプレーをしたら即退場にする。シューターに対してはkeep touch。押したり、腕を巻き付けたりするのはいけないが、さわっているのはよい。

10－3　スローオフについて

シュートを打った選手やそのチームの選手が戻るのを待つ必要はなく、ゴールされたチームが中央に位置していれば笛を鳴らして始めてよい。その際に必ずセンターラインを踏んでいなければならない。（現：ラインより一歩離れていてもよい）

18－9　レフェリーの差し違いについて

コートレフェリーがすべての決定権を持っている。

19－4　3つの退場が同時に1チームに起きたとき

スコアボードに書ききれなかったらオフィシャルテーブルにおく。

ハンドシグナル19が追加される（パッシブプレーの予告合図）

コーチはベンチの周りを指示するためになら動いてよい。しかし、抗議（ジェスチャーや言葉による）や、観客へのアピールのために歩いてよいわけではない。

5／20 コーチレフェリーシンポジウム

講師　IHF　CCM委員　Dr.ムスタファ

日本・アメリカは世界のハンドボール界で非常に重要となる。

日本は大国、豊富な施設があり、ハンドボール界が活発に活動している。

どのようにしてハンドボールが世界に普及していったか。

優れた選手、コーチ（指導者）、レフェリーはヨーロッパから生まれている。

結果もヨーロッパが中心に優れたものを残している。

IHFの戦略変更。役員をヨーロッパ以外から選出するようにした。

こうしたIHFに役員が多くの国から参加することで、世界にハンドボールを広めようとした。

アジア大陸の代表が、IHF内でアジアの主張をすることで大陸の利益を拡大できる。各大陸代表、3カ国が参加できるようになった。

参加チーム数の増加。

レフェリーも大陸代表が1ペア選ばれるようになった。

1999年の世界選手権はエジプトで開かれることになった。

IHFの組織、CCP、COC、PRC、CCM、MC、過去バラバラに活動していた。

しかし、CCM、PRC相互の関連を否定できない状況であり、協力して活動していく必要が増してきた。ハンドボールの世界普及のためには、各委員会が等しく高いレベルの活動をしていかねばならない。

●日本で何が必要か。

それは、マネージメント、予算、人、経験、専門家を見いだすこと。

4つのカテゴリー：貧しい国、人口の少ない国、豊かな国（人、金）、人口は少ないが豊かな国。

●与えられた条件で何をするか。

日本はすべてがそろっている。

そこで、各地の機能する組織を作り上げることが必要。

それが中央の協会と密接につながること。地区で何が必要かをつかみ、地区の力を向上させ、そのために中央やIHFと協力する。

そして、8才頃からピックアップして育てる。身長、手の大きさ、他の競技からでも引っ張ってくる。

各地区での活動が重要。国レベルの大会を多く開く。

メディアとの連携。日本を強くするために行動すること。IHFとの関係を持って行動すること。

そして日本中に広めること。

日本にないものはない。

人をエジプト中から集めた。20の都市を組織化。監督をどのように選ぶか。

監督が選手をスカウトする。中央組織から依頼。地区の監督が条件にあった選手を探す。

発掘した選手には、報酬を与える。各年齢の段階で、発掘。地区で育成。育成、練習内容は中央委員会でつくる。監督はそれに沿って指導。1年毎にレベルを上げた内容に変える。そして、大会を開く。その中から30人程度の選手を選ぶ。16才以下のナショナルチームをつくる。すべてのトレーナーが集まってプログラムをつくる。

良いトレーナー、良い選手を中央の一貫指導の中で育成する。

家族同様にして、メディアなどの協力を獲得していく必要がある。

簡易ハンドボール指導実践報告書

投げ当てハンドボール

秋田県湯沢市立湯沢北小学校　高橋章子

1、種目特性

(1)形態的特性

投げ当てハンドボールは手でボールを扱い、2チームのプレーヤーが入り交じってプレーし、相手の妨害を排除してボールを進め、一定時間内に得点を競い合うスポーツである。コートは長方形（30m×15m）でハンドボールのゴールの代わりに跳び箱をおき、この跳び箱にボールを当てると点数になるものである。跳び箱のまわりにはフィールドプレーヤーが立ち入ることのできないゴールエリアを設け、危険防止（ゴールキーパーとシューターの衝突による）、大量得点による興味の減少防止に役立てる。ボールはハンドボール1号球を用いる。

(2)正規のハンドボールとの関係

正規のハンドボールは、走る、跳ぶ、投げるといった基本的運動能力や、敏捷性、瞬発力などを高めるのに適している。素早く連続する5～30mのランニング、全競技時間にわたるジャンプ、方向変換そしてスローを成し遂げるために、高度な基礎技術力を土台とするスピード持久力と筋持久力が必要とされる。上肢と下肢は、胴体と同様に絶えず負荷が加わる。肩、腕の筋肉組織、および手、指の筋肉組織はキャッチとスローの繰り返しによって発達する。また、ほぼすべてのゲーム行為は、相手の妨害の下で実行されるのでプレーヤーはすぐれた先取りの能力と反応能力を持っていなければならない。

上記のような能力が必要となるため、ハンドボールはすぐれた運動能力的特性を持っていて、投げ当てハンドボールにおいてもほぼ同様な効果が期待できる。また、目標となる跳び箱のまわりは360度シュートができるためシュートチャンスが多く、運動の成功感を実感することができる。そして、ボールが小さく、ほかのボールゲームに比べ比較的ボール操作が容易であるため、だれもが素直にゲームに入り込むことができる。このようなことにより、だれもが個人のレベルで、容易に運動の楽しさを味わうことができ、学習に対する意欲を高めることができる。

2、教材化における工夫

小学校低学年における教材化ということで正規のハンドボールを簡易化した投げ当てハンドボールにした。ハンドボールのコートを縮小した形で行う簡易ハンドボールについても考えたが、シュートチャンスが多いものがよいと考え、直径5～6mの円の中央に跳び箱をおいた。反則については明らかに押した、歩いた、ラインを踏んだなどの場合のみとし、なるべくゲームの進行を止めないようにした。また、ゴールキーパーについては活動量が少なく興味を失いやすいと考え、固定化しないことにした。

3、実践結果

「ハンドボールって何かな。」という思いから始まった活動であり、

教師自身もどこまでやらせることができるか不安なところもあった。しかし、児童たちは「楽しいボールゲーム」ととらえてくれたようで、毎時間を楽しみに待っているようであった。

　この教材を通して児童の変化が特に大きかったのは、投げる動作であった。「2、子どもたちの準備状況、(3)技能の実態、③投げること」にあるように、オーバーハンドスローをする児童は少なかったが、多くの児童がゲーム中にも使えるようになり、さらに遠くへ飛ばすことができるようになった。また、捕る動作もキャッチボールなどでは、手だけで捕ることができるようになった。しかし、まだ自分が動かなければ捕れないときに動けず、捕り損なうことが多く、ゲーム中には顕著に見られた。まだ低学年で、ボールの軌道と飛んでくる時間を先取りする能力の発達が未熟であるため、今後も捕るための練習を続けることが必要と思われる。

　5時間目のゲーム時は、投、捕の動作ともぎこちなく、捕り損ない、転がったボールをみんなで追いかけているようなゲームであった。また、ボールを持ったまま何歩も歩いてしまうことが多かったが、仲間同士で注意し合う姿が見られ、徐々になくなっていった。このときのゲームの様子はボールに群がる、だんご型であった。しかし、10時間目のゲームでは、投、捕のミスが少なくなり、素早くボールが運ばれるようになった。ボールに群がるばかりでなく、よりゴールに近いところへ走ってパスされるのを待つ児童や、指示を出してパスを促す児童も出てきた。シュートチャンスも多くなり、ゴールキーパーの頭の上を越すループシュートをする児童も見られた。

　このように、児童やゲーム様相の変化が大きく、私自身大変驚いている。このことは、投げ当てゲームを進めながらルールを決め直したり、児童の意見を入れてさまざまなゲームを取り入れたりしたことにより、児童の興味が続いたためと思われる。低学年のゲームでは、現在身につけている動きや簡単な技能を用いて、より楽しいゲームができるように規則を工夫したり、勝敗をめぐる諸問題を解決したりすることに重点をおいている。本教材ではこの重点を押さえ、児童は楽しく活動できたと思う。

　今後も各学年で実践をし、教材化を検討していきたい。

ねらい

技能	ボールの投げ方、捕り方を工夫し、楽しくゲームをすることができる。
態度	規則を守り、互いに仲良くゲームを行い、勝敗を素直に認めることができる。
健康安全	ゲームの場所の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりして運動をすることができる。

学習指導全体計画

<table>
<tr><td>校時／分</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10
20
30
40</td><td rowspan="3">オリエンテーション 他</td><td colspan="9">ウォーミングアップ</td></tr>
<tr><td>ドリブルゲーム</td><td>投と捕のゲーム</td><td>シュートゲーム</td><td colspan="2">投げ当てゲーム</td><td colspan="2">ディフェンス練習</td><td colspan="2">対抗戦</td></tr>
<tr><td colspan="8">反　省</td><td>まとめの学習</td></tr>
<tr><td>学習のねらい</td><td colspan="4">ねらい１
学習の進め方がわかり楽しみながらボール扱いに慣れることができる。</td><td colspan="4">ねらい２
ゲームのルールを知り、今できる力でゲームを楽しむことができる。</td><td colspan="2">ねらい３
投げ方や取り方などを工夫してゲームを楽しむことができる。</td></tr>
</table>

最高の技へ一つの条件

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー Free Throw

24カ国が覇を競い合った熊本の男子世界選手権にふれ、改めてハンドボール競技の奥の深さを認識したのは、私一人だけではあるまい。

ところで大会前、ＩＨＦのビルケフェルド事務局長を囲んだ時の話題が強烈に脳裏に焼きついている。一言で言えば、選手のため、最高のプレーを発揮させるためには最大の努力を運営面で払うということだ。

選手のエントリー（16人）締め切りは、１次が開幕１カ月前の４月15日、最終が前日の５月16日だった。日本流に言えば、プログラムには確定メンバーは載せられない。

「観客に不親切だし、日本ではプログラムに正式メンバーを掲載するの当たり前。だから最終エントリーの締め切りは１カ月前のこともある」

この説明に対しビルケフェルド事務局長は明快に反論した。

「早くメンバーを決めてしまうとケガ人が出た場合など戦力が落ちるし、もしも変更可能としてもビザの問題などが立ちはだかる。それより16＋アルファなら簡単にクリアできる。また、相手の戦力を分析して選手の入れ替えも可能。だから最終エントリーの締め切りは開幕前日がベストなのだ」

この発言は、勝利のために、また選手を保護する観点からの認識に立っている。わが国では観客のために、できる限り多くのファンを集めるためにーと視点が全く逆である。

プログラムのことよりも、ベストメンバーで激しい戦いが最大の観客サービスとの考えの違いである。観客サイドか、選手サイドか。答は一つ。ビルケフェルド事務局長に軍配が上がる。

ベストコンディションならこそ、最高のプレーを発揮でき、観客に提供できる。観客も納得し、感動する。これ以上のプレゼントはないし、観客もそれを欲しているのだろう。

最高の技を披露させるために選手を保護するー簡単なようで、わが国では両者の認識はまだまだ一致していないのが現状ではないだろうか。

各国際大会開催案内

第3回ヒロシマ国際ハンドボール大会

■目　　的　1994年に広島市において開催された第12回アジア競技大会を記念して一昨年より始まった大会で、今年は女子の大会。
国際平和都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深める。

■大会期間　平成9年7月24日(木)～7月27日(日)<4日間>

■競技会場　広島市東区牛田新町1-8-3
広島市東区スポーツセンター

■参加チーム　日　本（ナショナルチーム）
チェコ（ナショナルチーム）
中　国（ナショナルチーム）
イズミ（広島）

■試合方法　1回戦総当たりリーグ方式

■入　場　料

	前売券	当日券	通し券
一　般	1,500 円	2,000 円	4,000 円
中高生	700 円	1,000 円	1,800 円

■日　　程

●第1日目　7月24日(木)　広島市東区S.C.
中　国 VS 全日本　18:00～19:20
イズミ VS チェコ　19:40～21:00

●第2日目　7月25日(金)　広島市東区S.C.

●第3日目　7月26日(土)　広島市東区S.C.
チェコ VS 中　国　17:00～18:20
全日本 VS イズミ　18:40～20:00

●第4日目　7月27日(日)　広島市東区S.C.
○(前座試合)
○高校女子招待試合　12:30～13:30
中　国 VS イズミ　14:00～15:20
チェコ VS 全日本　15:40～17:00

'97 ジャパンカップ
日本ハンドボール協会60周年記念国際大会

■目　　的
●日本ハンドボール協会60周年記念行事の一環として、国際大会を開催する。
●男女ナショナルチームの強化事業として、シドニー・オリンピック対策とする。
●ハンドボール競技の普及と共に、チャリティ事業として位置づける。

■開催期日　平成9年8月29日(金)～31日(日)

■開催会場　横浜文化体育館、船橋アリーナ

■入　場　料

	前売券	当日券	通し券	前売通し券
一　般	2,000 円	2,500 円	5,000 円	4,000 円
大学生	1,500 円	2,000 円	4,000 円	3,000 円
中高生	1,000 円	1,500 円	3,000 円	2,000 円

[男子]ドイツ：ＳＣマクデブルク
　　　韓　国：尚　武
[女子]ドイツ：ＶＳＢライプチヒ
　　　中　国：未　定

■日　　程

●第1日目　8月29日(金)
船橋アリーナ　(女子)日　本 VS 中　国　17:30
　　　　　　　(男子)ドイツ VS 韓　国　19:00
横浜文化体育館　(女子)U－23 VS ドイツ　17:30
　　　　　　　(男子)日　本 VS U－23　19:00

●第2日目　8月30日(土)
船橋アリーナ　(女子)ドイツ VS 日　本　15:00
　　　　　　　(男子)日　本 VS 韓　国　17:00
横浜文化体育館　(女子)中　国 VS U－23　15:00
　　　　　　　(男子)ドイツ VS U－23　17:00

●第3日目　8月31日(日)
船橋アリーナ　(女子)中　国 VS ドイツ　14:00
　　　　　　　(男子)韓　国 VS U－23　15:30
横浜文化体育館　(女子)日　本 VS U－23　13:00
　　　　　　　(男子)日　本 VS ドイツ　14:30

IHF名誉会員 イオン クンスト氏のご冥福をお祈りします

元ルーマニア男子ナショナルチーム監督、前IHF／CCM(技術指導委員会)委員長イオン　クンスト氏が5月28日午前6時頃、熊本市で急死されました。

同氏には、昭和40年代以降、日本代表チーム等が、ルーマニア遠征、合宿等で大変お世話になり、日本ハンドボール界の競技レベルの向上に多大な貢献をいただいておりました。

同氏の冥福をお祈りいたします。

7月の行事予定

- 第10回全国小学生大会
  7月29～31日：滋賀県長浜ドーム
- 第17回全国クラブ選手権大会
  (東)平成9年7月25日～27日／本宮総合体育館・他
  (西)平成9年7月18日～20日／山鹿市総合体育館・他
- 第3回広島国際大会(女子)
  7月26～27日：広島市　東区スポーツセンター
- 第11回女子ジュニア世界選手権大会
  7月31日～8月15日：アイボリーコースト
- 常務理事会

CONTENTS　7月号

[お詫び] 6月号の9頁、世界選手権大会の代表名簿の中で、橋本選手ほかの所属を誤って「本多技研」としてしまいました。正しくは「本田技研」です。お詫びして訂正させていただきます。また、実業団選手権大会の詳報を7月号で紹介するとお伝えしましたが、都合により8月号に掲載させていただきます。

●大会要項●

第2回　ジャパン オープン ハンドボール トーナメント
第53回　国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会

1　主　催　㈶日本ハンドボール協会
　横浜市・川崎市
　横浜市教育委員会・川崎市教育委員会
　かながわ・ゆめ国体横浜市実行委員会
　かながわ・ゆめ国体川崎市実行委員会

2　主　管　神奈川県ハンドボール協会

3　期　日　男子の部
　平成9年8月7日(木)～8月10日(日)〈4日間〉
　女子の部
　平成9年8月7日(木)～8月9日(土)〈3日間〉

4　会　場　男子の部(横浜市開催)
　横浜文化体育館
　平沼記念体育館
　横浜市立大学総合体育館
　女子の部(川崎市開催)
　川崎市とどろきアリーナ

5　種　別　男子の部・女子の部

6　参加資格

(1)平成9年度(財)日本ハンドボール協会に年度当初「一般A」に登録された単独チーム及び個人とする。但し、年度当初以降の追加・移籍登録での出場は認められない。また、日本リーグ(「一般L」登録)・全日本学生ハンドボール連盟・全国高等学校体育連盟ハンドボール部・全国高等専門学校ハンドボール部に登録されたチーム及び個人の出場はできない。

(2)各地区の予選を通過したチームまたは地区の推薦をうけたチームとし、開催県は男女各1チームの出場を認める。

(3)中学生以下の出場は認めない。

(4)各ブロック出場割り当て数について

地区	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	四国	中国	九州	開催県	計
男子	1	4	6	3	3	5	2	3	4	1	32
女子	1	2	3	1	2	2	1	1	2	1	16

注) 各都道府県・ブロック予選にあたっては、選手登録の確認についてはそれぞれの主管協会が責任をもって行なうこと。また、各都道府県代表による2チーム以内が出場することによって実施されることが望ましい。

職探しています。

Mr.Leif Jansson
Stallets Bygata 116
44254 Ytterby
Sweden
41才　4人家族
現在　Kungalrs ハンドボールチーム監督
他10才代のチームと女子チームをトレーニングしている

Mr.NYAVO KOKOV(26才)
アフリカ／トーゴー
現在、チュニジアリーグ1部　A.S.HAMMAMETでプレー中のプロハンドボールプレーヤー
トーゴーナショナルチームのプレーヤーでもある。
身長　196cm
体重　95kg
住所　B.P.8340 LOME TOGO
Tel　228-259149
Fax　228-259330

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

HAND BALLS

アデランテ 前進

PKCH3-AD　¥4,600

検定球3号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

ホワイト／ブラック

ホワイト／ピンク

PKCH2-AD　¥4,500

検定球2号，国際公認球，アデランテ，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製

ホワイト／ブラック

ホワイト／ブルー

PKCH3-BS　¥4,000

検定球3号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・男子用，人工皮革，
パキスタン製

ホワイト／ブラック

ホワイト／ピンク

PKCH2-BS　¥3,800

検定球2号，ビッグシュート，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
人工皮革，パキスタン製

PKCH3-SRT　¥5,600

検定球3号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・男子用，天然皮革
パキスタン製

NEW

PKCH2-SRT　¥5,500

検定球2号，スエルテ，48枚パネル，手縫い
一般・大学・高校・女子用，中学校用，
天然皮革，パキスタン製

PKCH3-ADR　¥2,800

練習球3号，アデランテ，　手縫い
一般・大学・高校・男子用，合成ゴム
パキスタン製

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

本　　社　／〒733　広島市西区楠木町3丁目11-2　TEL082（237）5145
東京営業所　／〒111　東京都台東区松が谷1丁目5-14　TEL03（3843）4671
大阪営業所　／〒543　大阪市天王寺区東高津町1-6　TEL06（761）8441
大阪物流センター　／〒577　東大阪市西堤本通東3-4　TEL06（781）4845
広島営業所　／〒733　広島市西区楠木町3丁目11-2　TEL082（237）4772
名古屋営業所　／〒460　名古屋市中区千代田2丁目24-8　TEL052（251）2381
福岡営業所　／〒812　福岡市博多区東比恵4丁目12-9　TEL092（431）6950
仙台営業所　／〒984　仙台市若林区卸町東4丁目1-8　TEL022（288）2361

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三七六号
昭和四[illegible]六月七日 第三種郵便物認可
平成九年六月二十六日 印刷 平成九年七月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一 電話 代表 三四八一ー二三六一 振替 ○○一二○ー七ー一○二九三
編集兼発行人 中澤重夫
価格は登録金に含む